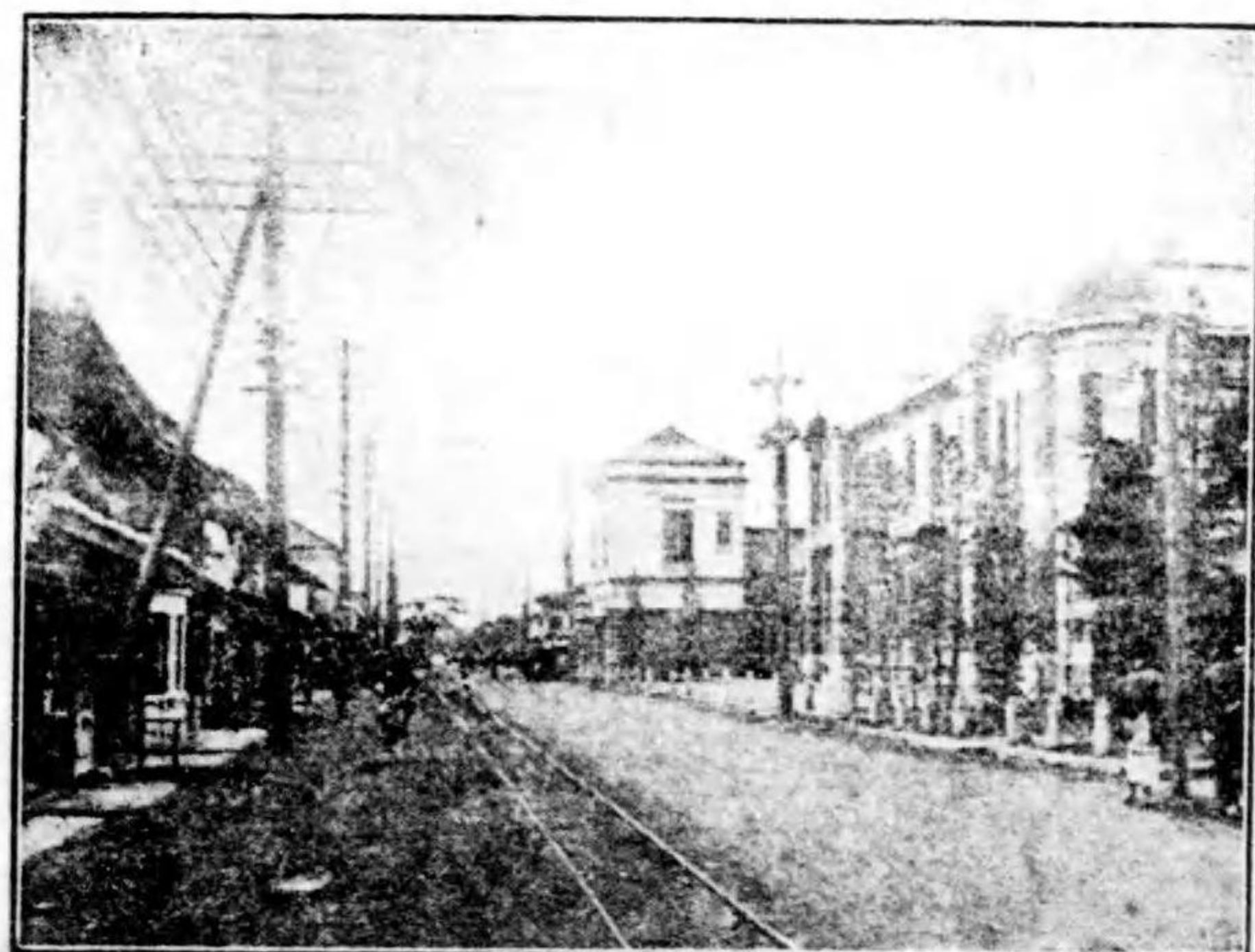


特106

212

# 新福島



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

# 始





特 106  
212

## 目次

刊行の辭	一
福島縣の位置並都市	三
福島縣の政黨	五
電氣事業の將來	八
市福島の將來	二一
銀行合同論	二四
泡沫銀行會社と其責任者	一八
本縣の新聞雜誌	二一
本縣の銀行會社並に會社商店	二四
福島縣の人物	四一
刊末に	五七





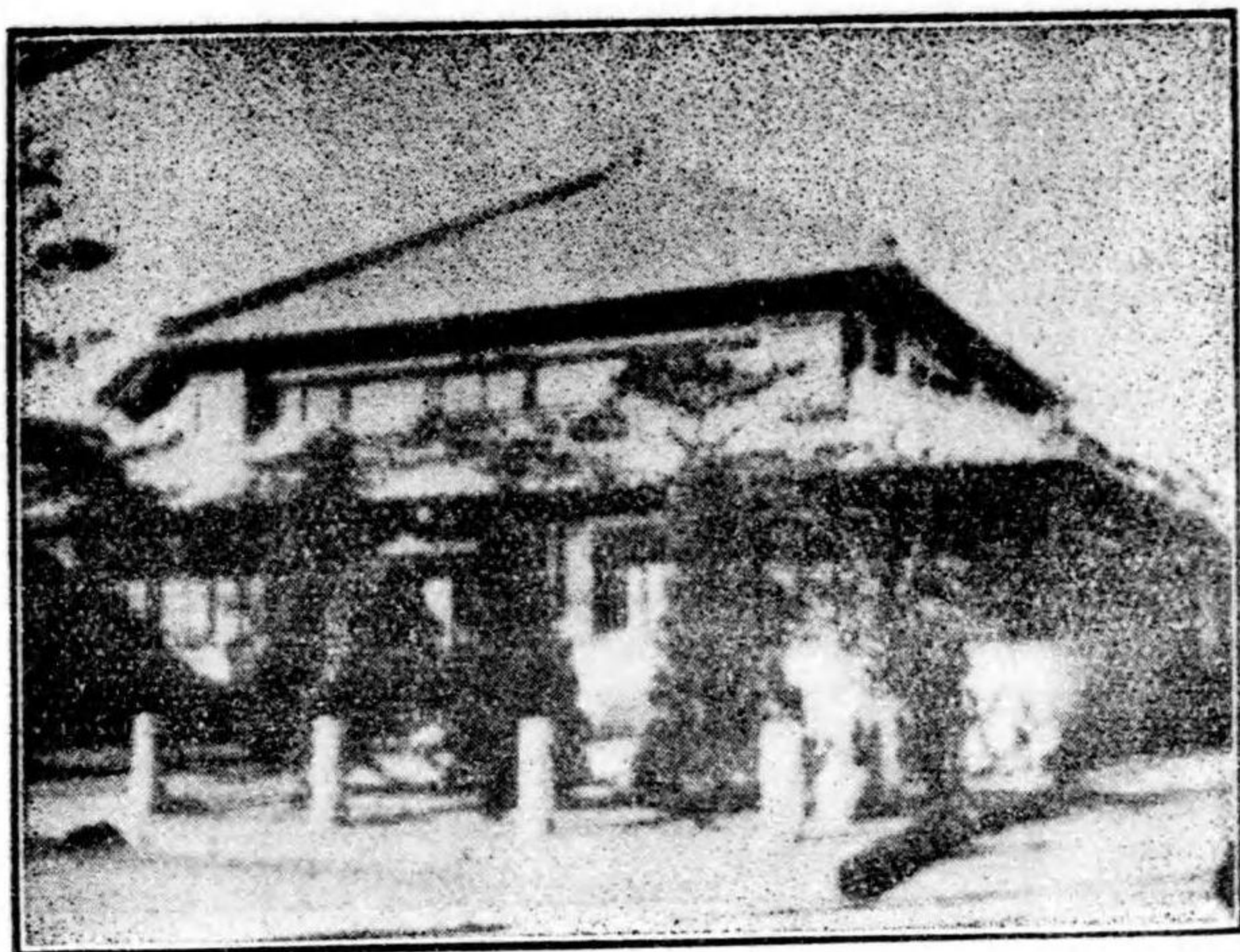


新  
福  
島

齋  
北  
洋  
著



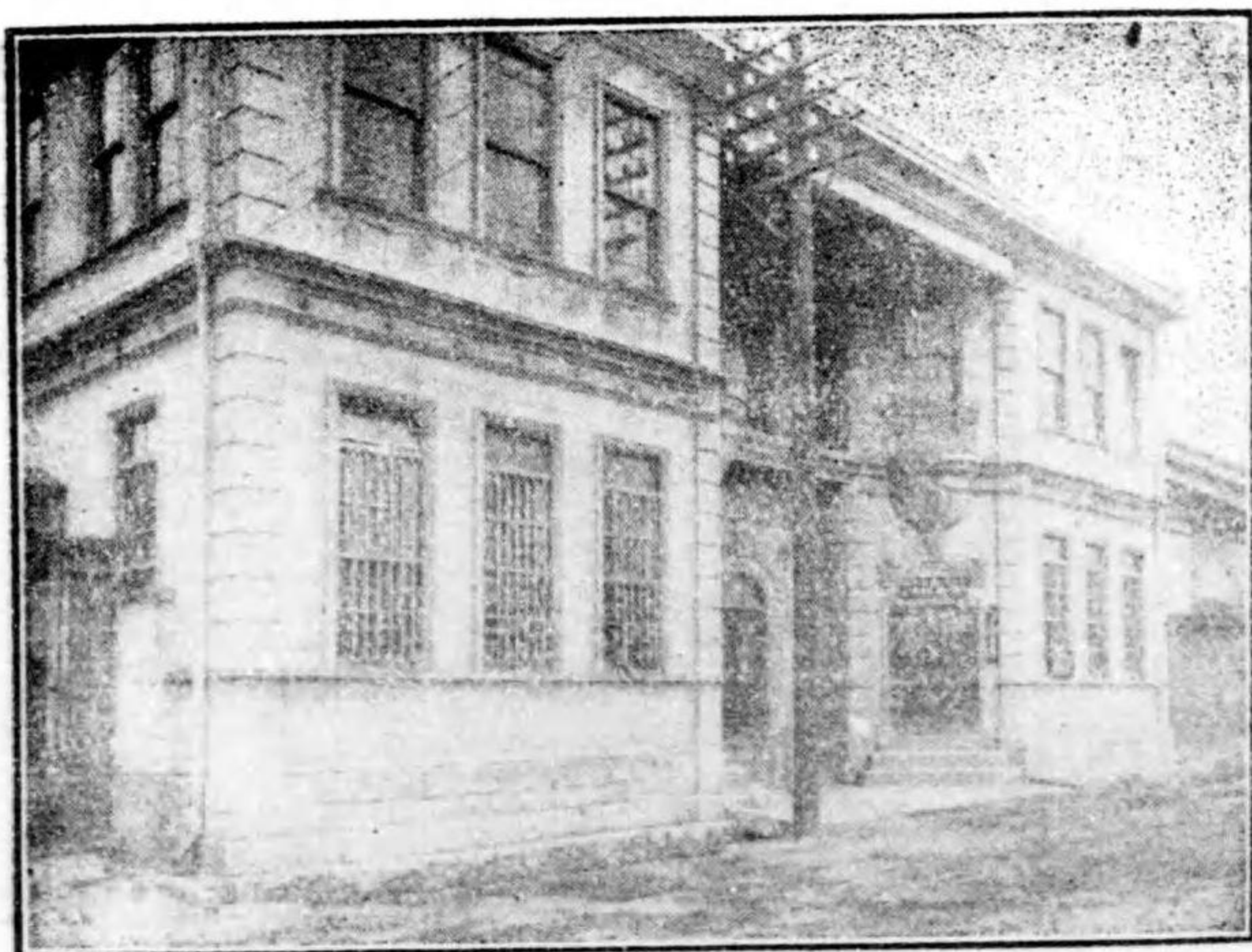




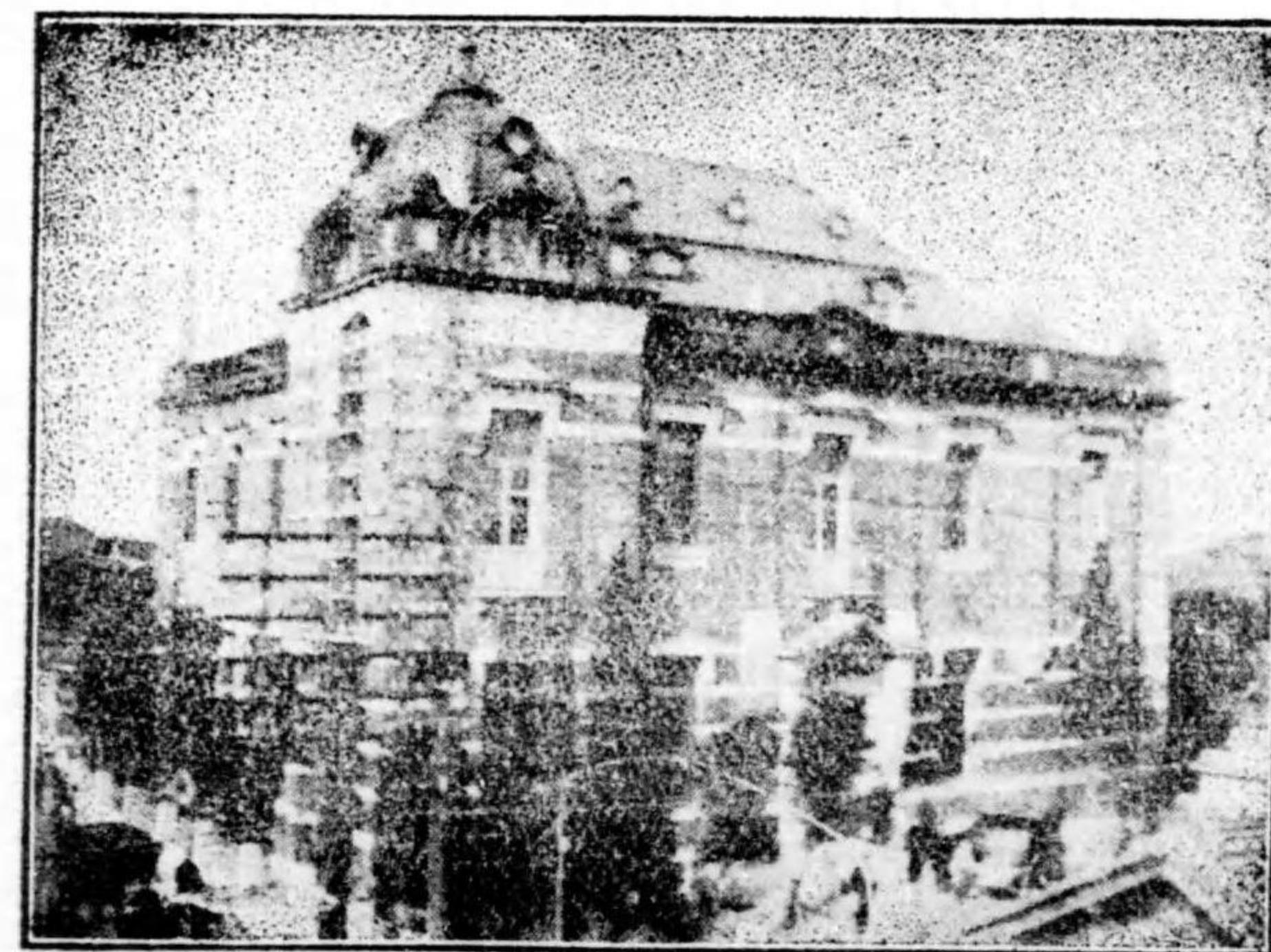
福島商業銀行



福島停車場

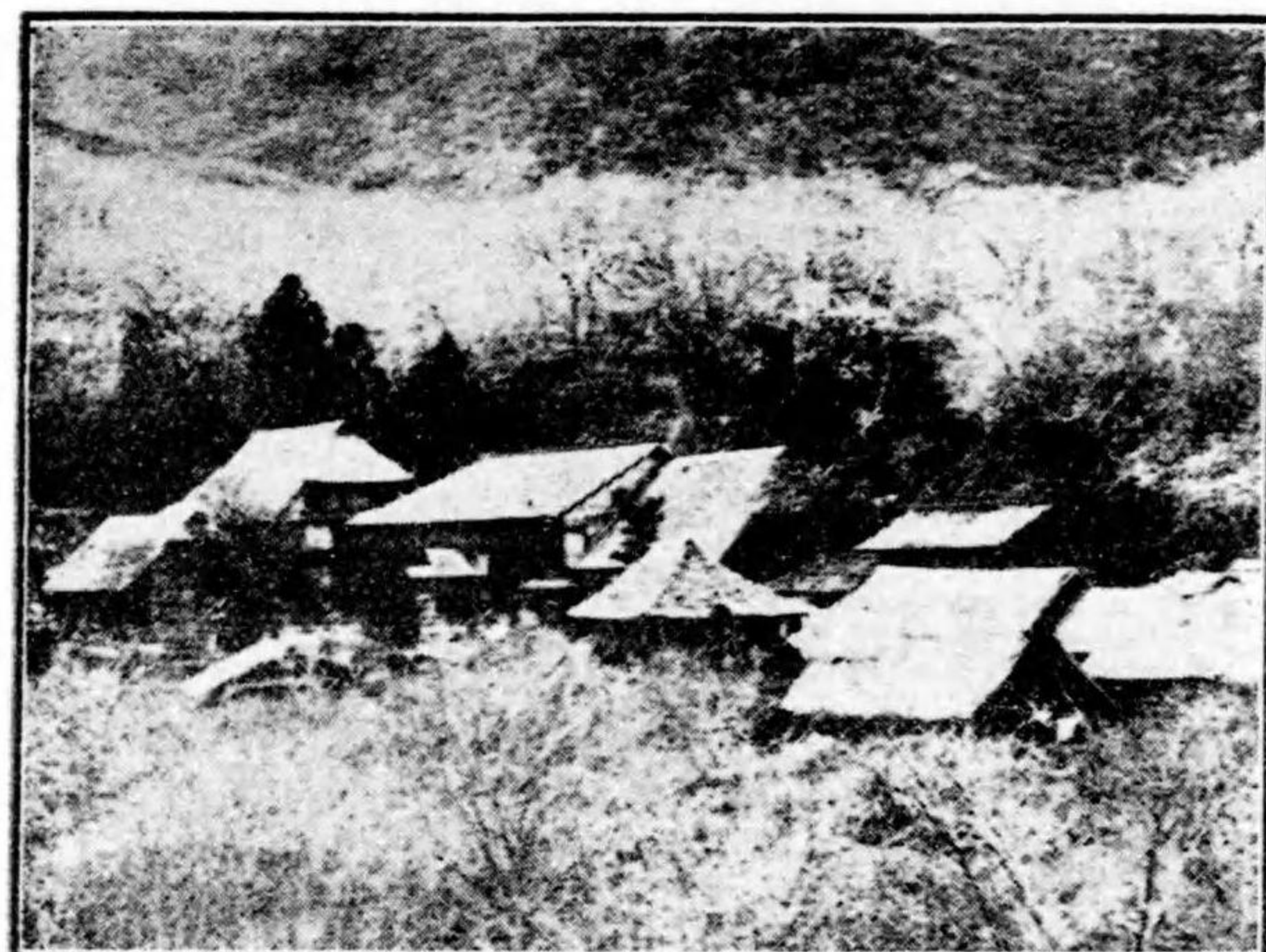


福島銀行



福島縣農工銀行

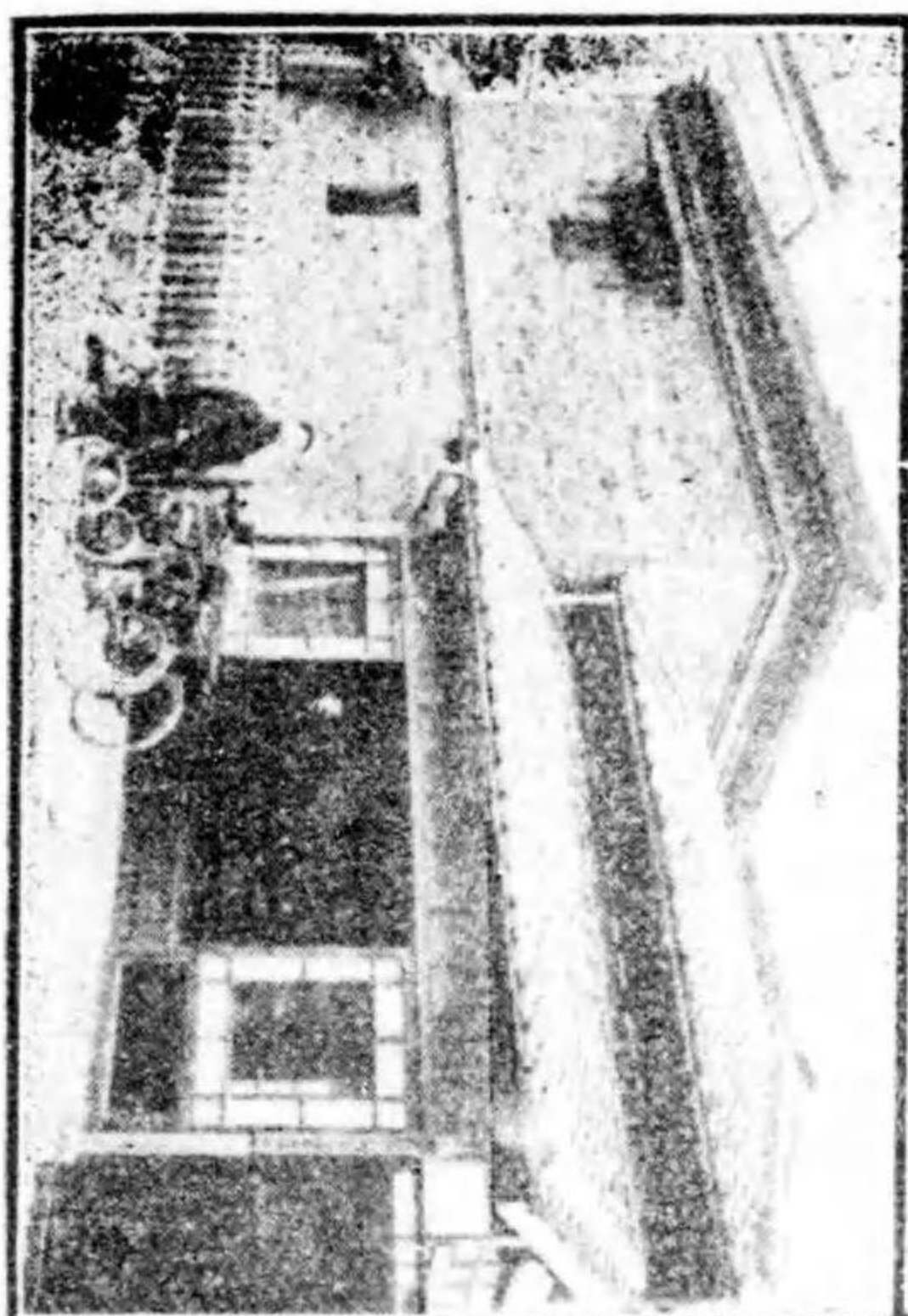




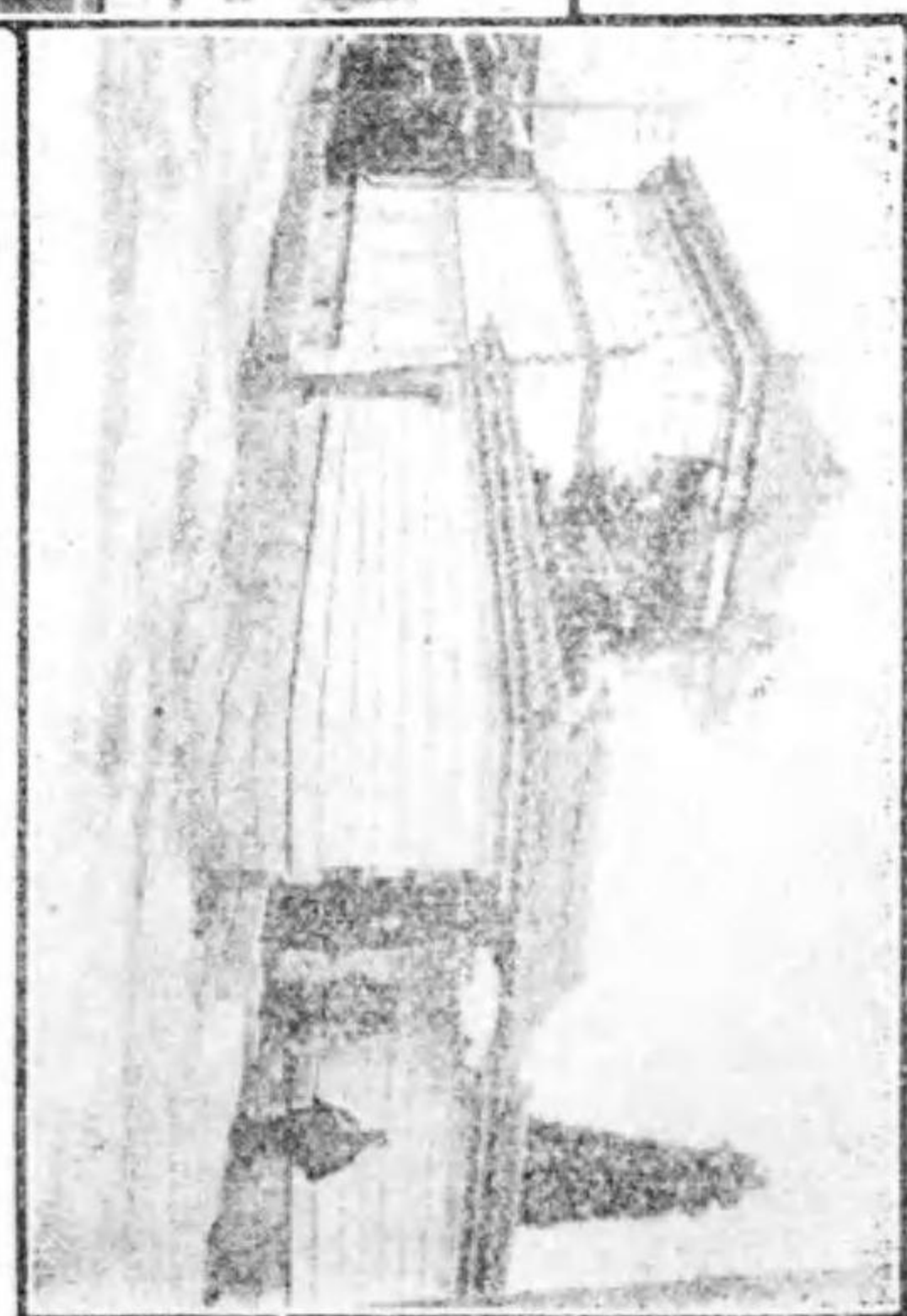
(照參事記 景の館旅堂階二泉溫湯るぬ)



(照參事記)園庭の館旅湯子玉と景の瀧泉溫湯高



店商式株藤後



邸氏郎五鶴部阿  
役締取務常燈電島福  
町榮市島福



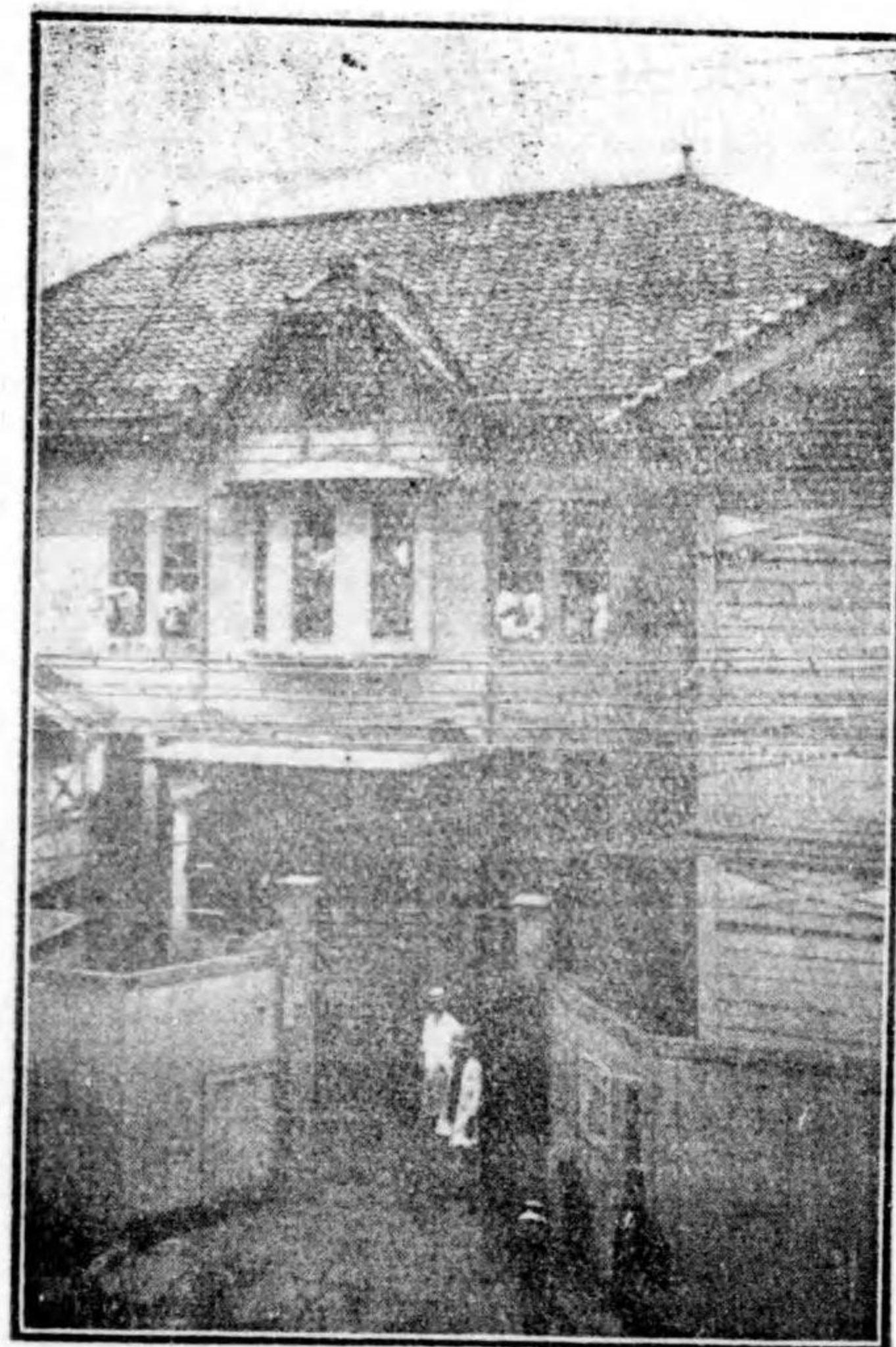
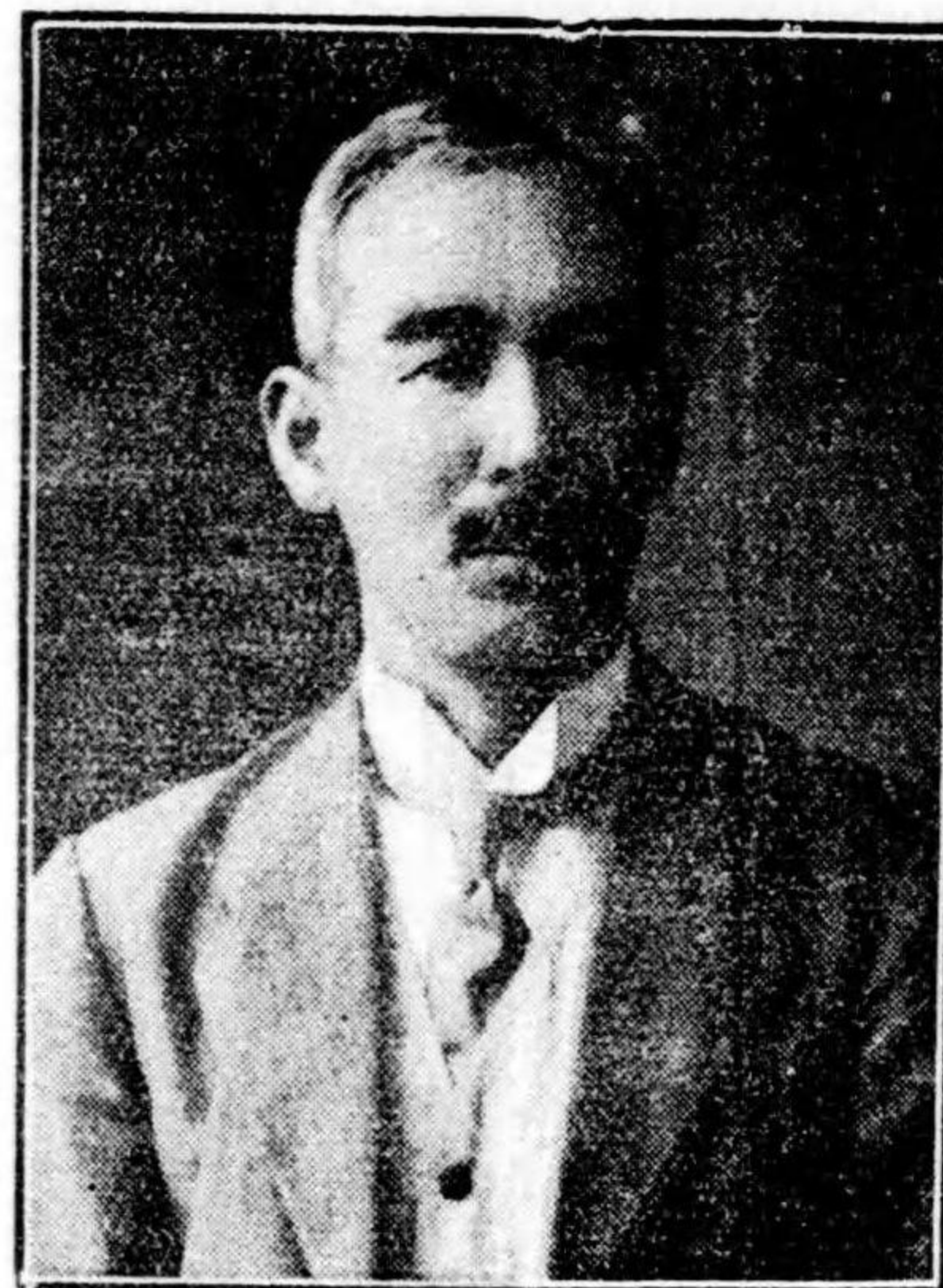


園 公 央 中

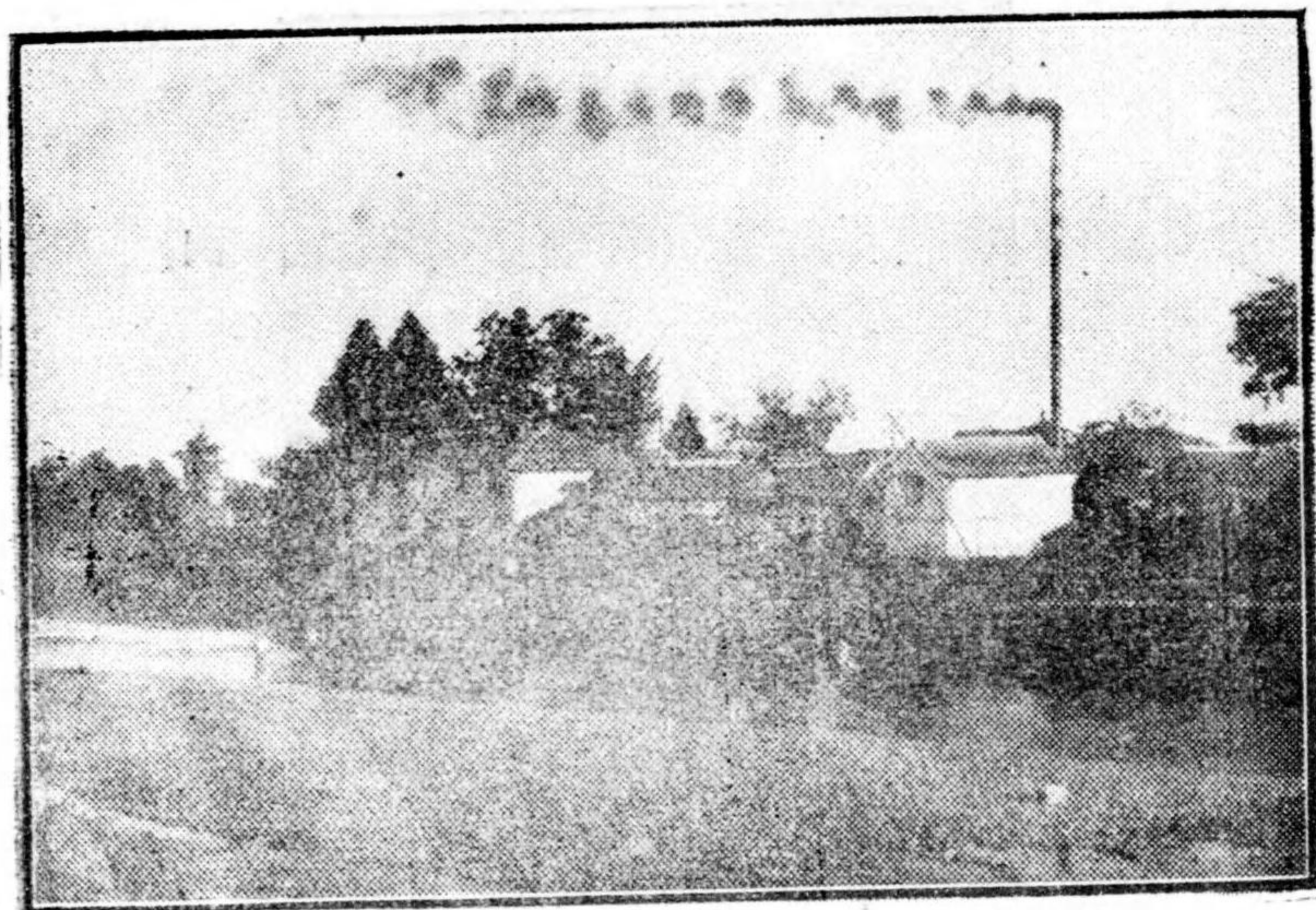


所合待設私前場車停

佐藤病院長と病院



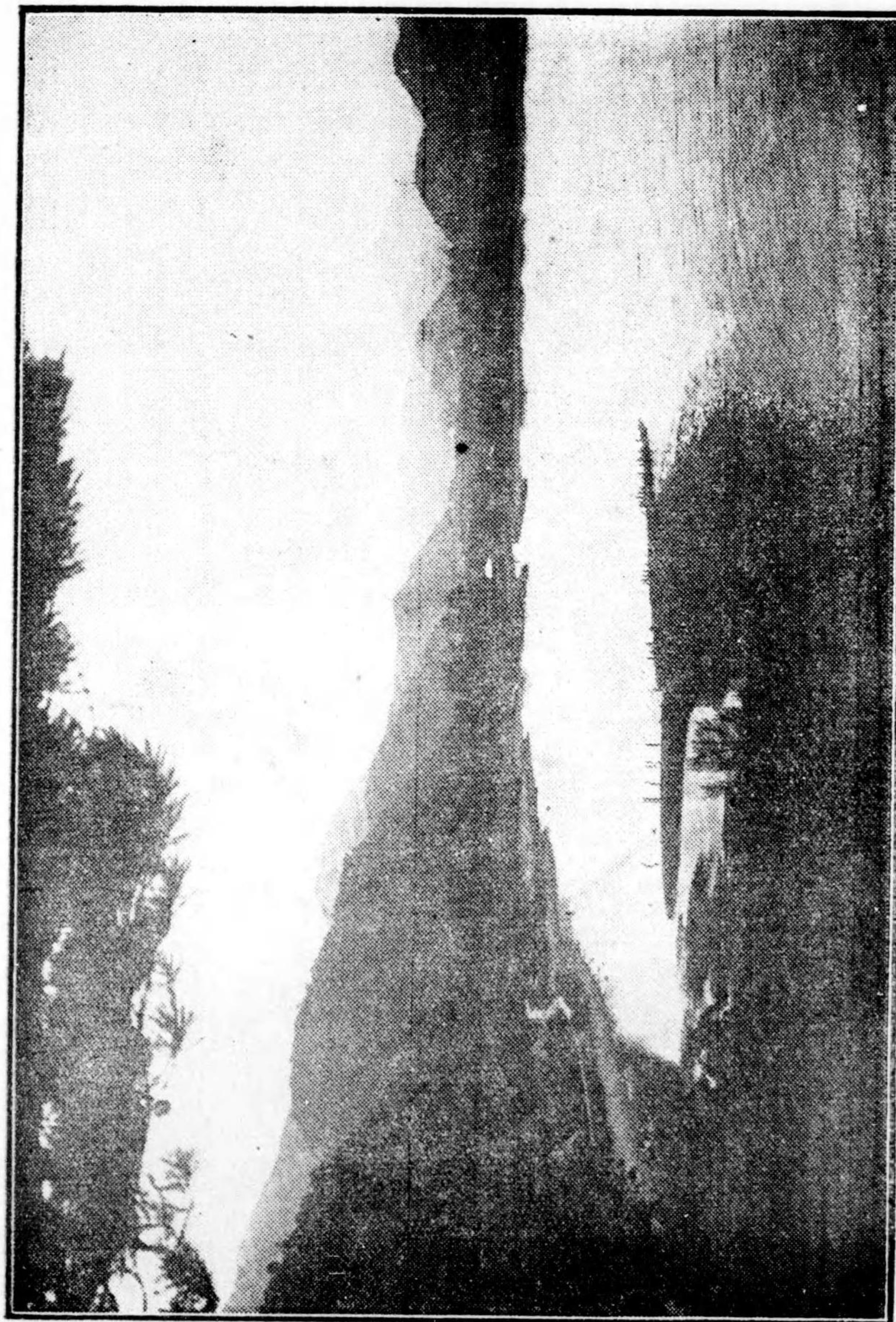




(照参記)場工村中絲製野佐

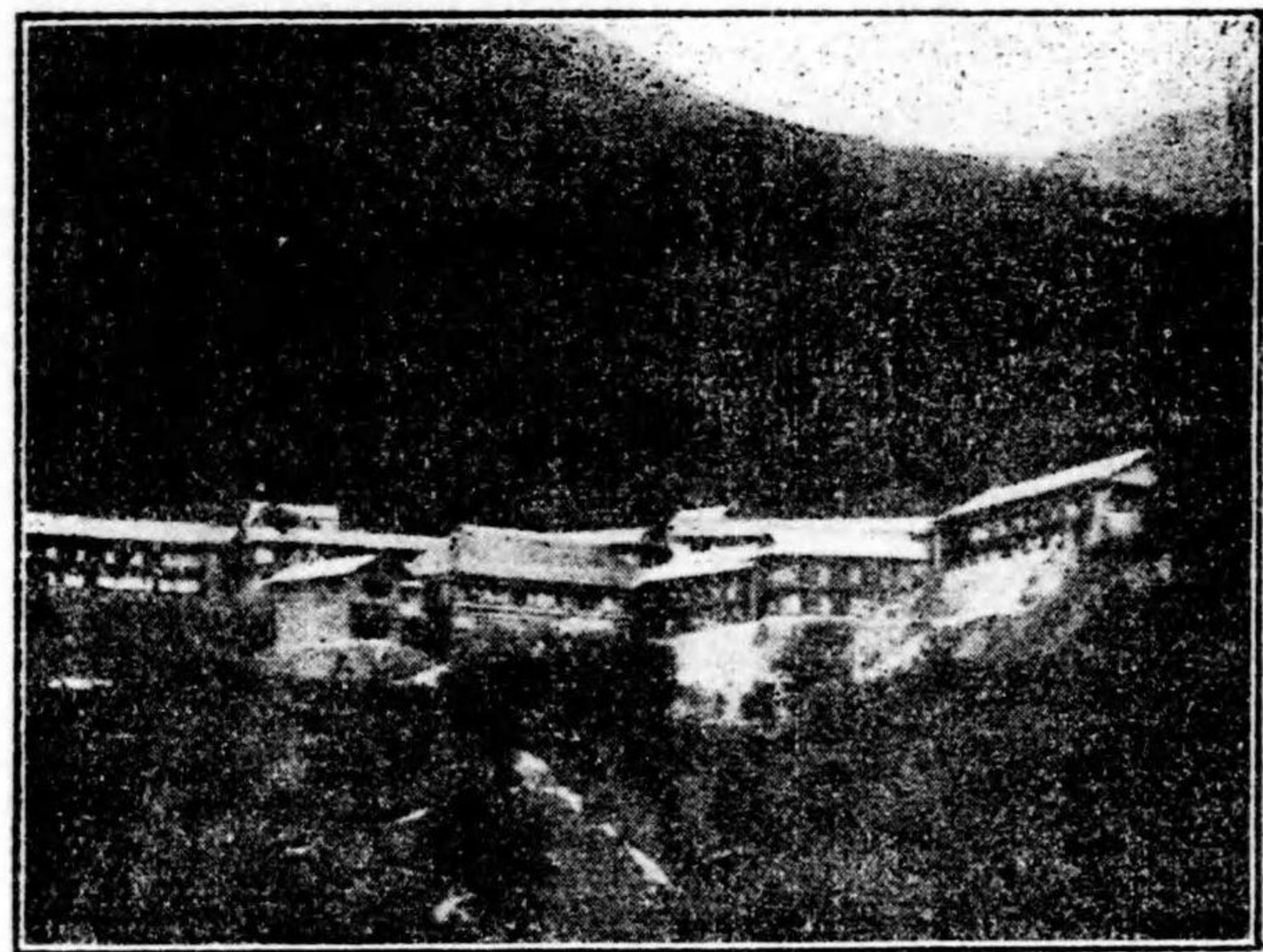


園公山葉紅



圖は郡山電氣株式會社發電所取入口です(記事參照)

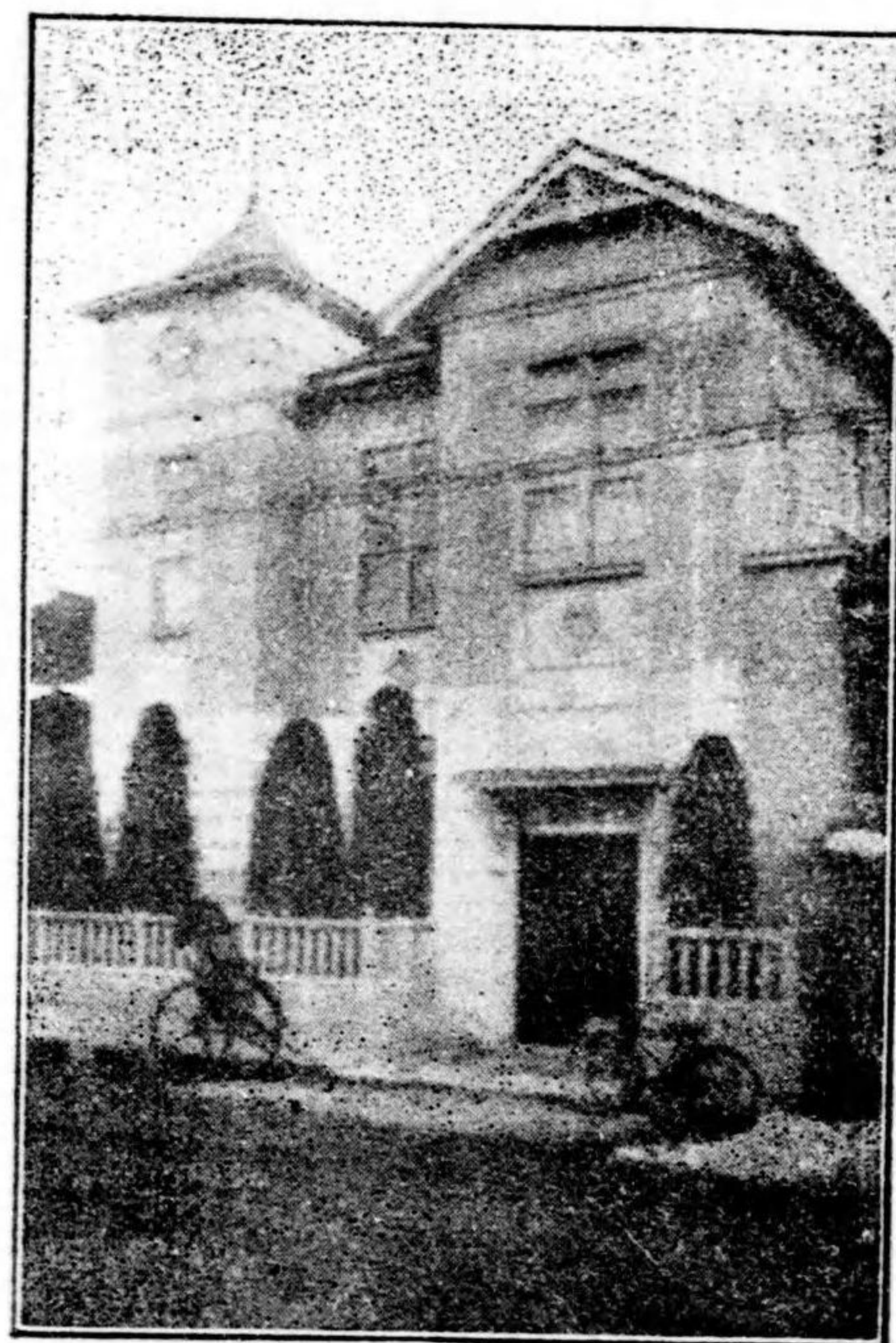




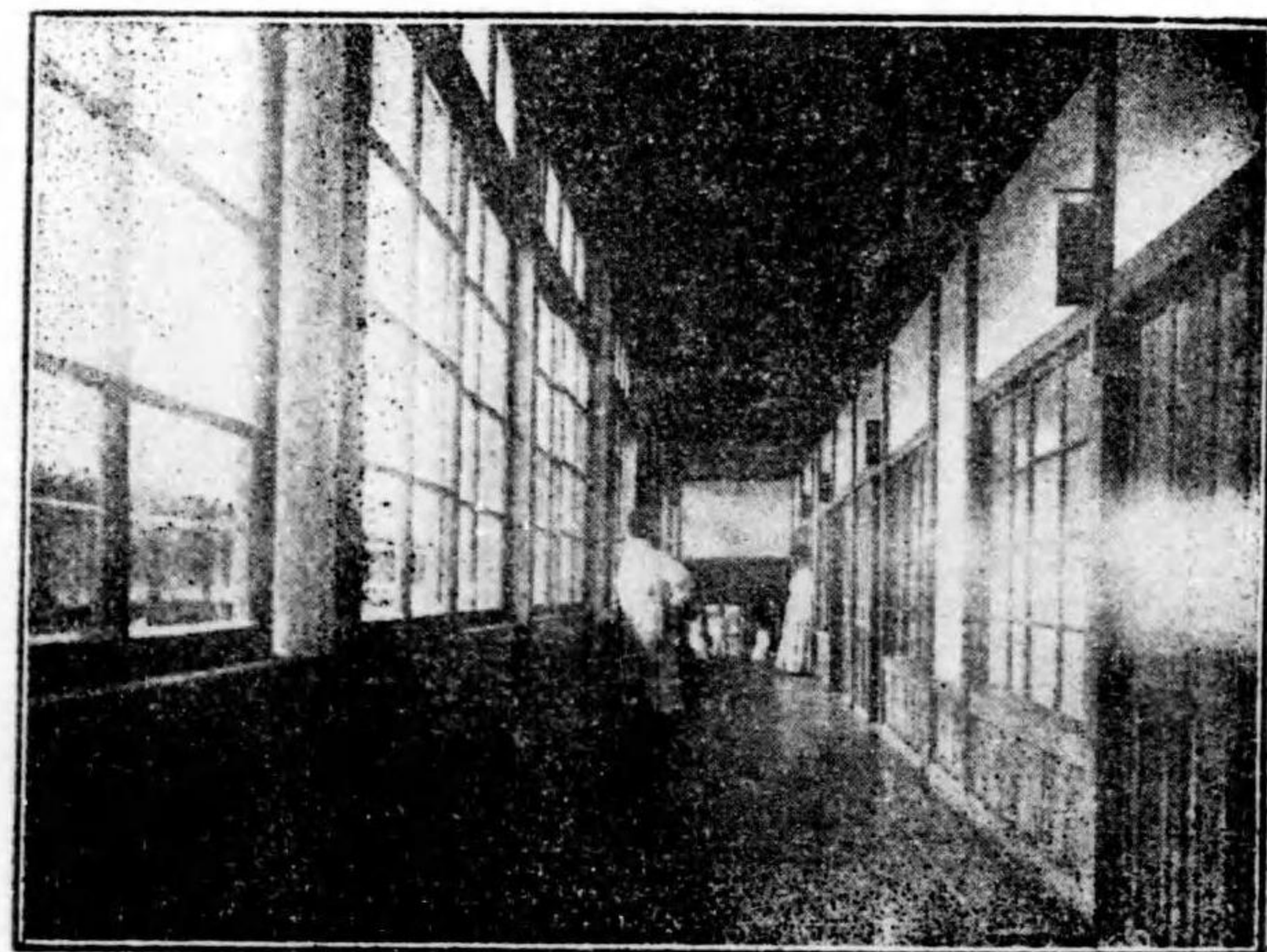
五 色 温 泉



明 治 病 院

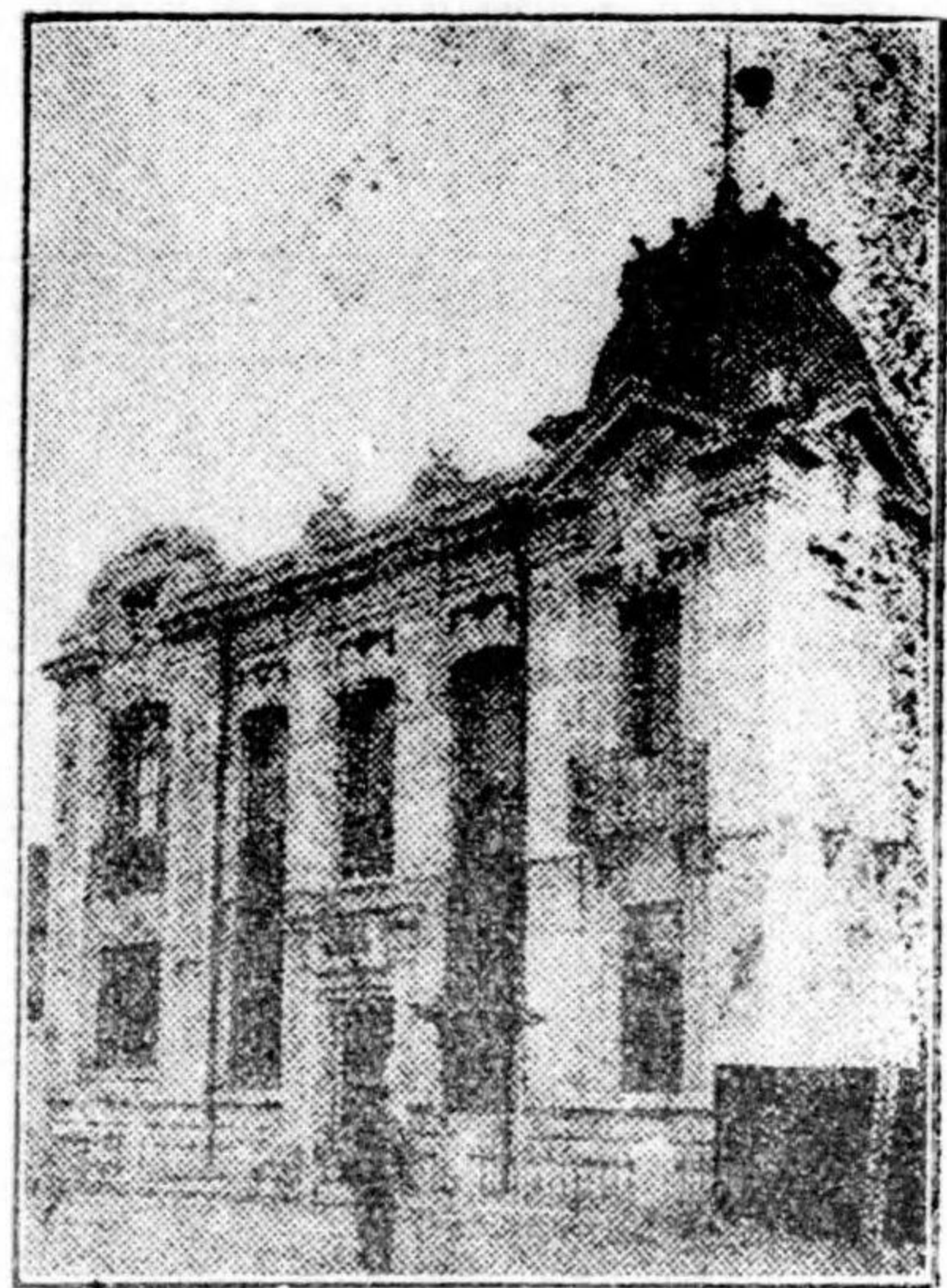


桐 澤 病 院



共 立 福 島 病 院

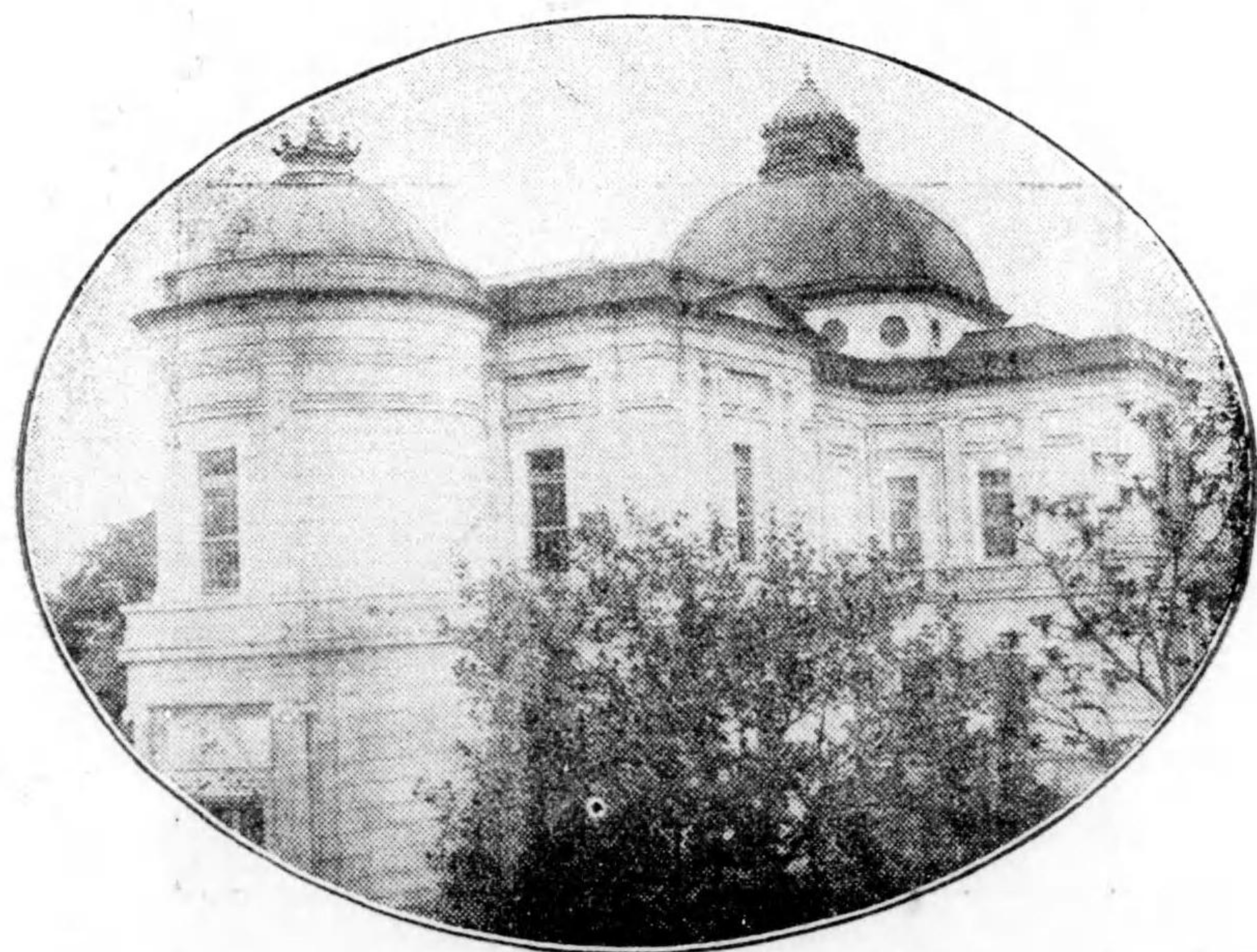




磐城銀行



平銀銀行



物産陳列館

## 刊行の辭

身體の健全を欲するものは先づ其の體質と性格とを自覺し而して之れに適應すべき健全法を攻究し國家の盛榮を希ふ者は先づ其の國體と人情とを知了し而して之れに適すべき盛榮策を攻究せざるべからず、福島縣の發展を欲し殷賑を希ふ者は宜しく先づ其の地の利不利を自覺し然る後に時勢を考へ之に適應すべき發展法殷賑策を講ぜざるべからず一市一郡の發展に資せんが爲めに刊行せられたるの書は蓋し之れあらざれど一縣の發展に資せんが爲めに刊行せられたるの書は未だ之れあるを聞かず其の地理的方面と歴史的方面とに於ける書は多からんも之れに關して意見を挿入敷衍したる書は全ど稀なり彼の官公衙の編纂に係る統計書沿革誌の如き善行美事録の如き皆な其の將來の發展に資する無きに非ずと雖も主たる目的は蓋し此に在らざる也若し此に在りとせば之れを一般公衆に發賣して其の自覺を促がさるべからず



余が此の新福島を刊行せんと企だてたる敢て其の意味に於てすとは言はざるも或は其の一端を補ふに資すべき結果を得んかと思へり余が才は固より菲薄余が學は淺狹識見文章亦其の任に堪ふべからざるを知る然れども大膽にも自ら企てたる事業を中途にして廢するの愧づべきを知り自己に及ばざる所は之を先輩に問へ之れを友人に諮り援助を仰ぎ補正を乞ひ漸く此の稿を脱し此に印刷に附し以て公刊するの榮を得たり其の經過を顧み結果を思へ心に忸怩たるものあり記して刊行の辭に代ふ

大正十一年春

齋

北

洋

## 福島縣之位置並に都市

福島縣は岩代磐城一圓を總轄し東北の咽喉に位す南は茨城縣栃木縣に境し西は新潟縣及び群馬縣に接し北は山形及宮城縣に連り東は一帶太平洋に面す

縣内到處山嶽重疊し其の陸前より來る山系は磐城の中央を南走して吾妻山磐梯山の舊火山となり蜿蜒して下野に入り、殊に岩代の西境は連山高さ七千尺に達す地勢並に氣候は兩山系の爲めに自ら分れて三郡となる石城、双葉、相馬の三郡は磐城山系の東部太平洋岸に接し濱通りと稱し氣候温和寒暑共に甚だしからず

中通りの一市九郡は磐城、岩代山系との間に位し地味肥沃戸口稠密にして氣候は濱通りに比し寒暑共に稍々勝り岩代山系以西の一市五郡を會津地方と稱し寒暑共に酷しく積雪丈餘に達すること珍らしからず

河川の大なるは阿武隈川とす縣下第一の巨流にして源を西白河郡に發し大小の諸川合し



て宮城縣荒濱に至つて海に注ぐ、池沼の大なるものを猪苗代湖とす縣の中央に位し三郡に涉りて周圍約十七里の淡水湖なり此の地高松宮御別郊あり風眺甚だ佳也縣内の交通は陸羽街道宇都宮より白河を過ぎ宮城縣に通じ濱街道は水戸より平を過ぎ陸羽街道に合す鐵道は東北本線、常磐線、奥羽線、磐越東西線あり私設としては白河棚倉間の白棚鐵道耶麻一圓の耶麻軌道、信達一圓の信達軌道更に大正十一年十月より開通さるべき福島、飯坂間の福島飯坂電車等あり

かく陸地の便大に宜しきに反し海運は良港に乏しきは遺憾なり、本縣は面積百十九方里戸數二十萬餘、人口百八十万にして福島市は縣の最北西端に位す東西一里南北二十五丁戸數約八千人口三萬八千餘縣廳の所在地也、若松市は縣の西端に位す人口四萬三千郡山町は縣の中央に位す人口二萬餘平町は縣の東南端に位す人口二萬其他白河町の一万五千中村町の一万等の町あり

福島縣は土地概して肥沃なるを以て住民の多くは農業を正業とす只だ濱海岸地方に漁業

者あり商工業は近事益々注目されつゝあり本縣は東北六縣中位置關東に近く人智向上發展しつゝありて益々人口増加しつゝあり

## 福島縣之政黨

明治十二三年當時に於て全國に風靡せる所謂自由民權運動當時の縣下政客の眞個憂國の赤心より東西に奔馳せるの悲壯淋漓なる記憶は本縣政黨史上久遠に傳聲さるべき立彩ありと信ず、素より冷犀なる歴史眼より見れば彼の彈正ヶ原事件といひ福島事件と云ひ更に加波山事件といひ必ずしも政治的大事件には非ず。然り、大事件には非ざるも而も渾てこれ官僚と專制と抑壓とに對する挑争なり敢闘也、進撃也苦戰也犠牲也其挑闘排撃苦戰犠牲の意氣今何人の胸中に宿れる何政黨に其の面影を留むる。

氣慨ある事なし全くなし、現在の政黨なるものは政府黨たるを在野黨たることを問はず渾てこれ營業團體なるのみ、自由民權發祥地の誇負今何處に棄擲せる、本縣に於ても帝



國議會開設當時は政黨とは自由黨の事なりき廿五年に於ける松方内閣の大干渉下にすら殆ど政府黨候補者の出馬を許さざりしなり其の後後藤伯の大同團結運動あり大隈侯の憲政黨生れ憲政本黨となり進歩黨と化成す自由黨の本流は伊藤公傘下の政友會に集るに主潮自ら二分派をなせりしと雖ども政友派の勢力は舊自由黨當時全成なりしが如きに似ず常に憲政黨系に有判なりき而して之が中心をなす者は河野廣中翁を首座とし平島松尾氏の徒黨にして安部井磐根、柴四郎、白井遠平、阿部義高氏は其對敵たりき、大隈侯進歩黨に飽いて黨勢衰へ國民黨成るに及んで其の黨風一時縣内に靡然たる觀ありたれども日露戰役後漸次政黨事情に變化あらんとする矢先、石城國民黨先づ利權の爲めに政友派と握手して民黨頽落の濫觴をなし大正二年の春、桂公の發心より同志會成るに及んで多年民黨としての苦楚を嘗めたる國民黨は舉げて其の傘下に集り全く黨情を一變し殊に大隈内閣の施行せる總選舉には多數憲政會を目して不自然なる多數黨なりとして極力之が打破に努め政友派の勝利を誇る日は憲政派が悲慘を極めたる敗北に泣けると同日なりき憲

政派最後の頼みの綱となせるは縣會に於て多數を擁せるの一事にしてこの多數を擁せるが故に能く政友派の主張せる電柱税を排撃し、更に幾多の專恣を敢行し得たれども根本治水策、税制整理等を標榜せる政友派の努力奏効せるものが果た亦世人の觀測の如く事大化せる民心と政府黨のおん蔭にや大正八年秋に於ける縣會の改選期には憲政派が最後頼み綱たる多數黨の鐵壁も全く破靡せられ政友派は今日國會に於ける如く縣會に於ても多數者の優勝的地歩を占取し居れり、此に至るの縣政史上最も不愉快なる一汚點は例の喜多方事件也喜多方事件は政憲兩派の幹部が加擔せる不祥瀆職事件たる丈け本縣の政黨なるもの、腐敗し居るかを表明するの一確證にして而も其の一斑たるのみ倘し全貌を見るの機會あらば世人を營業事業化せる政黨に起業せる吾人は最後に政友派の黨勢擴張の惡策を黨綴するの順序に至れり、政友會の黨勢擴張策の一は所謂所鐵道綱也野岩羽鐵道水郡鐵道、小名濱線川俣鐵道、福相鐵道等凡そ政友會の鐵道策最も多量に最も露骨に利用せるもの本縣の如きは比例ならんか第二の策は學校と築港と也、大正九年春の總選舉



戰に政友派が殆ど全勝の成績を収め得たり而も政友の勝利は吾人に何等の愉快な暗示を與へず亦憲政派の敗殘は何等非弔せんとするの念慮起らず之れ當然の運命なればなり目下政友は得意満面なる時なり而して之政友派全盛の絶頂なり政友派は得意の絶頂に於て舞踊する間に民心は早く政友派を去るべきなり。

## 電氣事業の將來

一般財界の好況は石油の騰貴と相待つて電燈の使用を増加し殊に製造工業の勃興に伴ひ動力及夜間用燈火の需要は著しく増大せしめ一面化學工業界の輸入杜絶と困難との故に其市價の暴騰を現前し電氣化學工業に空前の活氣を與へ爲に電力の需要は急激に増加したりこれ最近電氣事業勃興の主因となす、即ち戰前各種化學工業を通じ僅に二萬八千キロの電力を使用するに止まりしに五萬七千キロより八萬九千キロに躍進し工事中及事業計畫中の分を加算する時は實に四十八萬五千キロを算する盛況を見るに至れり、斯くの

如く電力の需要増進に連れ既設の設備を以てしては到底其急需に應ずること能はざる爲め全国各地に電力不足より生ずる苦痛の聲を聞けるが（逓信當局は電力供給に非常なる苦心を拂ひ各會社に事業の合同と電力の融通を自由ならしめ又現在の火力發電の設備が舊式且つ多量の石炭を要し、炭價狂騰の爲に經營上幾多の損失を受くる状態より脱す才策として水力發電の有利なるを説き其の利用を促す處ありたりき、最近に於ける本邦發電力は水火力を合せて百萬キロに上る内約七割に當る七十萬キロは水力發電にして從來火力發電の容量多かりしも大正元年以後は全く位地を轉倒する傾向を示し最近の調査に依れば全發電力中水力利用の割合は七割四分の多きに増加し居れり、本縣に於ける電力電の増大も大正六年以後に於て特に目醒しく約十五萬キロより殆んど倍大するの盛況也、本邦電氣縣の偉觀想見すべし、曾て政爭問題の具に供され政友系の壓迫の下に成立したる只見川水電の如きは發電力實に十餘萬キロに達する本邦は元より東洋無比なる大計畫に屬し其の他千キロ臺の新設増設電氣事業の數茲に枚舉に暇あらざらんとす、電力



の不足電力料の騰貴は必然に電気事業會社の利益を増加せしめたり、而も斯業は一般製造工業に比すれば其の性質上堅實なるに反して投機的暴利を擧ぐる事能はず蓋し水力電気事業は最初に多額の資本を投下し發電所の建設をなさざる可らざるも収入に於ては薄細なる電力料金に依るの外なく其の關係は投資の利息を回收するに類すれば勿論會社自體が自ら電力を利用して有利事業を經營する場合は角別の事、電気事業者が電燈を供給する場合概して料金の値上は困難なるを通例とす一種の社會問題を惹起する事あれば也電力の供給に於ても小口は隨時引上得るとするも大に供給は多くの場合一定の料金を以て相當期間を契約し居るが爲に例へ需要増加する事ありとするも満期に至る迄の値上は全く不可能に屬す、故に電気事業は事業の性質上他の一般工事の如く莫大なる利益配當の望なければ共文化と生活の向上に従ひ電力の需要益々増加すべきを以つて之が經營にして拙劣ならざる限り確乎堅實不變の利益を擧げ得る事保證し得、電気事業は斯くの如く堅實なるを以て特に休戦以後投機熱旺盛の折柄にも拘らず各方面に大小の計畫續々現は

れたりき、本縣に於ける電気事業中増設以外の新設事業は好間、母畑、東白、川前、双葉、大瀧根、請戸川、植田水電、菊田、半田、靈山、吾妻、岩代電力、奥川其他十指に餘る上述の只見川水電の計畫が其の規模の龐大なる丈幾多の競願者を出し且つ利慾に汲々たる政友派の壓迫と割込に蹂躪せられ辛うじて水利權の認可見るに至るは全國公知の事實にて此間の消息は如何に電気事業の有利堅實なるかを實證せるものと云ふべし。要之電気事業は有望堅實也之が經營者が誠意を以て之に當らば一割前後の利益を擧げるに難からず。本縣電気事業界は此の經營上の堅實を保證する手段として漸次合同に急げるが如し將來は福電と郡電之が中樞として燦然たる電気縣の面目を輝かすに至らんか。

## 市福島の將來

福島市の市制を施行したるは明治四十年四月に在り爾來茲十五年間如何なる發展をなしたりや人口は四萬を算すに至り商業に従事する者は一千餘戸三千餘人は二千餘戸五千五百



人となり工業従事者は一千三百餘人より二千二百餘人となり小學校は第一乃至第三なりしを市制施行と同時に第四第五の二校を加へ更に大正十一年第六校の二校を加へ乙種商業學校を創立し大正七年四月より甲種商業學校に昇格し縣立となり明治四十二年には商業補習學校出で大正二年には産婆看護婦學校成り成蹊女學校郡立農學校成り舊來の師範學校中學校及保嬰實業補習學半塾訓盲修齋女學校等皆な夫れに育英事業の發達を期しことに高等機關として高等商業學校の設置を見十一年四月より開校し明治四十一年福島圖書館を創立し福島縣物産陳列館を創設し工業會社には共同生糸荷造所倉庫會社の二社のみなりしが福島羽二重株式會社福島紡績株式會社、福島製板合資會社、丸イ倉庫會社、丸福製材會社、福島木材、福島製氷福島製陶福島製藥福島製作所其他鐵工所等相踵ぎて出で工業試驗場と共に各種工業の發達を期し、大正五年には福島蠶種米穀取引所を解散し六年には福島商業會議所を創立し而して又公認競馬場設置の機運を開き斯くて商業工業上に許多の變遷と發達とを表示しつゝあり是れ市福島十有五年の概觀にして市福島

が實業方面に於て如何なる趨勢に向ひつゝありやを暗示せるものならずや。

從來の市福島は商業の福島なり此處數年來の市福島は商業本位工業發達の福島なり將來の福島は商工提携の福島也と斷定するを憚からざるなり、然れ共商工業方面の知識は今尚ほ幼若なるを免かれず中央及近縣に於る工業學校入學人員は年々二三十名に過ぎず其の學を卒へて事業を經始する者多くは他の府縣に於てし來つて福島の工業界に貢獻せるもの殆んど稀なり是れ從來福島は工業的發展に心なかりしを證する者に非ずして何ぞ。然り而して福島が商業本位工業發達の地位より商工提携の地位に向はんとする今日に於ても市民は如何なる計畫を立てべきか。

此の根本的發達即ち道德的發達を期せんには必ず之れが指導者なかるべからず亦必ず之れが鼓吹者なかるべからず乃ち教育的人物の尊重を要し之れが爲には惜まざるを要す誘導機關の確立を要し之れが爲には勞力を惜まず費用を惜まざるを要す消極方面には僥倖心の發作を禁遏し偏黨心の熟狂を防壓せざるべからず青年團創立の如き甲種商業學校開



始の如き成蹊女學に於ける通俗講演の如き市催各種講演會の如き皆な此の目的に向つて進むべき一經路たるを喜ぶなり彼の商業會議所の設置の如き亦大に我意を得たる者なり而して偏黨心の時々事實に現はるゝあるは甚だ寒心に堪へざる所也、最後に一言すべきは市民の團結心に乏しきを惜むなり、彼の交通機關として福相鐵道の敷設の如き事は十有餘年來の懸案なるも單に政黨の力を借りてのみ事を成さんと試みるに過ぎざるは何ぞ情弊多き政黨の力を借るより青年團の如き商業會議所の如きを利用し彼の請願令の趣旨に基き當局に向つて献策するの途あるに非ずや自然の形勢を觀望するに止まるが如きは何事ぞ敢爲の氣性に乏しく且つ一致團結して市の爲め地方の爲めに全力を傾注するの心に乏しきを以て窺知すべし此れ只一例のみ希くば市福島の民市福島發展に心ある者大に努力し大に奮闘し其の發達を快速にし且堅實ならしめん事を

## 銀行合同論

近事各方面の銀行が合同論を高唱し而して此れが着々實現しつゝある事は當業者の利益は勿論又一般人の大へに歡迎する處なる可し、而して吾人が銀行のトラストの最も痛切に其必要を感じ然して此れが實現を歡迎せんとする所以のものは財界好況時代に於て惡戯に諸般の事業に犯され其結果は銀行會社の亂立を見而して其銀行會社の多くは何等事業界に貢獻したる事實なく却つて財界の攪亂を助長せしめたる感あるは吾人の最も遺憾としたる處であり又吾人は財界の今日に遭遇せし場合を思はしめ危憂を抱かしめたるものである果せるかな一度財界の不況に遭遇せるや其等一時的の銀行會社は實に慘憺たる狀況に陥りたるばかりでなく不正、違反、取付、倒潰、解散と云ふ様に極めて露骨なる斷末場を展開せしめたるは其事實を雄辯に物語りつゝあるにあらざるか而して今日に於て漸く當業者も一般人も自覺して多數の銀行會社の存立よりも少數にても健實なる基礎と世人の信用を置く銀行を必要とし其結果は合同論を高唱し此れが歡迎せんとする傾向著しく濃厚を加へ或は着々其實現を來しつゝあるのである、然し吾人は此銀行の合同



論は極めて適切なる方法であるが爲めに好感を以て歓迎するものであるが合同可なるが故を以て不自然なる合同までも歓迎せんとするものにあらず其れは甲銀行とて銀行の合同に際し消極的に或は積極的に或は銀行關係者及位置信用等をコントラスして見る時に於て果して合同の可能性を有するや果た不可能性を有するやを見る事は極めて必要であり此れが合同の要礎であるが爲めに兩者に於て充分考察せざる可からず若し此事を究めずして私的關係或は物質的慾或は情實的關係により前述の要點を閑却して不自然なる合同を爲す時に於て必ずや悔を將來に残し折角の合同も遂に破綻の根源になる様な實例は決して尠くないのである、吾人は合同を歓迎する條件として自然的の合同と不自然的の合同とに區別し不自然なる合同に對しては反對の意を有するものである、目下縣下に於て此熱の熾烈なる時に於て合同論者は須らく此處に留意せざる可からずと信ず吾人は目下縣下某銀行と某銀行とがトラストを企圖し而して其談議が極めて進捗し或は近く其實現さいせんとしつゝあると云ふ事なるも此等合同を以て不自然なる合同の實例として其

不自然と不可能性を縷述して見たいと思ふ其銀行の一方は稍健實なる銀行として最近認められつゝあるに一方は今日に到るも財界不況に陥りたる際の不始末と缺損等も未だ整理付かず四苦八苦の状態を持續しつゝある爲めに其合同論を以て此場合を切抜け策に利用せんとし種々なる情實關係を以て泣き入り運動しつゝあるとの噂である、若し斯くの如き次第を以て合同の要點と爲し其實現を見るに於ては吾人の云ふ所謂不自然なる合同であり必ずや紛紜の根源茲より端を爲し其前途に必ずや悲觀の材料を設くるものであると思ふ、而して此れは吾人の云ふ不自然なる合同の一例證として引用したるに過ぎずと雖も目下銀行のトラストの眞の理由其裏面を解剖し忌憚なく吾人に云はしむれば十中の七八までは情實的關係と私的關係或は物慾的關係に依つて其提唱しつゝあるかの如く吾人を思はしめつゝある事は甚だ遺憾であり斯くの如きトラストを排すの念を抱きしつゝあるものである、若し或場合に於ては止むなしと云ふ當業者もあるが斯くの如きは甚だ不忠實なるトラスト論者にして如何なる場合如何なる事情に據るも斷じて斯る不自然な



るトラストを爲すの必要を認めずと論斷するに躊躇せざるものである、然して此限りある紙上に於て詳細に論じ盡くす能はざるも要するに吾人は自然的トラストは大へに歡迎すると雖も不自然なるトラストは大へに戒む可き事であると云ふに結論するのである

## 泡沫銀行會社と其責任者

財界好況時代の特産物として各地より其特産物を出し財界に一大不安を感せしめたるものは所謂泡沫銀行會社其れである、而して此泡沫銀行會社の内容に就ては世人は既知しつゝある處なるを以て、其内容に涉る説明は之れを省畧し此場合其責任者に就て所論を進めて行く一體泡沫銀行會社が續出し然して一般人に其危憂の念を抱かしめたる其責任者は何人であるか勿論一朝一夕に其人を指摘するは極めて困難なる事柄なるも吾人をして忌憚なく言はしむる時に於て所謂事業家と稱する人々に對し其責任の全部を轉嫁するは或は當らざると雖も其大半を轉嫁すると雖も決して過酷に失せざるものと信ず然らば

所謂事業家とは如何なる人々を指摘す可きか勿論所謂事業家を區別する時は幾多の種類を有すると雖も先づ無知の人々を欺き事業の撰擇などは第二第三にもして私慾の爲めに事業を喰物にした人々に對し其責任の大半を嫁する事は當然なるも又一方此等所謂事業家の喰物になる事を自覺せず一攫千金を夢想して投資せる人々も其責任なしとせず吾人は所謂事業家が財界の好況に付け入り事業を喰物にせる人々に對し大へに責任を追及すると同時に事業熱に犯され或は一攫千金を夢想し事業の性質も其將來も考慮せず投資した人々に對して反省を促さざるを得ず、然して景氣觀測論者中に動もすれば現近の景氣は悲觀を要せざるものゝ如く或は景氣恢復の期が着々接近しつゝ來り早晚此れが恢復するものゝ如く豫測し一部の人々を喜ばせつゝありと雖も斯くの如き景氣觀測は極めて當らざるものにして世界の大勢のみを見て帝國の景氣觀測せんとする事は極めて空漠なるものにして其れよりは我國の不景氣が如何なる程度に低下しつゝあるかを以て觀測せざる可からず、恐らくは財界現今の實際の慘狀は一般人の豫想を裏切りつゝある程の極底



に沈淪しつゝある事は事實である此極底より稍順調期に出んとする事は如何に吾人の如き素人が觀測すると雖も半ヶ年や一年後に順調期來ると云ふが如きは想像も付かざる處である斯くも我財界が悲慘なる狀況を辿りつゝあると云ふ事は所謂事業家が無知の一般人を煽動し財界の荒廢せしめたる結果にして又一般人の無自覺が此原因を爲したものである吾人は今更財界の内容を繰返す事は甚だ好まざる處なりと雖も所謂事業家と云ふ人々が如何なる方策に依つて事業を喰物にしたるか云ふ事の例證として其二三の事例を以てするならば堂々たる趣意書豫算目論書及定款を作製し無知な金持を煽動し會社設立後は重要な椅子を與ふる約束を爲し自己は拂込も爲さず其間にあつて私腹を肥やす爲めに種々策畧を弄し甚しきに至りては刑事問題までも惹起するが如き奸手段に出で、まるで私腹を肥やし更に金持を煽動し一般人より資金を集中して不正の限りを盡す等實に言語同斷の所爲に出で事業を喰物し財界を攪亂したのである、而して遂に我財界を斯くの如く荒廢せしめたるものである、然し今日に於て其れを攻め或は糾斷したりと雖も覺束

なき次第なるを以て吾人は此場合所謂事業家に對し猛省を乞ふと共に一般人の自覺を促さざるを得ず

## 本縣の新聞雜誌

福島縣に新聞雜誌の多きは東北一と言ふも過言に非ずこれ時代思想の發達に起源し所謂言論尊重を意味するもの也、而して狹少なる市より多くのニュースを機敏迅速に蒐集し論議報道し居るは各記者の努力に依る日刊新聞は福島新聞、福島民報、福島民友新聞、福島日々新聞(創刊順)にして東京新聞の支局としては報知國民、中央、やまと、朝日、東日の六支局にして月刊旬刊としては新東北、東北經濟新報、實業之東北、東北及東北人、東北自由新報、福島商工新報、福島實業新聞等あり、郡山に東北日報、若松に會津日報、白河に白河新聞、平に磐城時報、川俣に二七新報等あり

新聞雜誌記者は社會の第三者として正義であらねばならぬ、これが爲めには小我を排し



小主觀を抛ち自己なるものを没却しなくてはならぬ所謂純正無垢なる自然人として嚴高なる理想を有し不偏不黨公平無私であらねばならぬ、余は本縣に住する幾十の記者はこの精神で社會を處理し教導してもらいたいことを希望する

## 各地の温泉

新福島であるから各地の温泉とした所で記事の範圍がある、福島縣に最も關係ある山形縣の五色を特に記す

**五色温泉** 奥羽線板谷驛の西二十丁不忘山の中腹に在つて海拔三千尺の高處にある、冬期には雪上を滑走するスキ一の設備もあり風景絶佳避暑の絶好地である、旅館は宗川合名會社の五双樓のみにして温泉旅館として設備完全なる事東北第一である、而も低廉にして勉強なり、婦人病には第一にして他に胃病などにもよい、あかんぼうの出

来る湯これが五色温泉の代名詞にして全國に著名なり浴客千人を入る事が出来る。

**名湯ぬる湯温泉** 福島市より四里、奥羽線庭坂驛より二里半、吾妻山の中腹に位し、海拔三千尺の高處にある、姥瀧の風光は都人士に絶好の趣味あらしむ吾妻小富士に僅かに一里にて達し夏日雄大の氣を養ふに足る附近一帶の奇觀と云ふべし、二階堂伊藏氏の經營の旅館にして其設備完全なり、眼病には特に効あり實に全國有名なる名湯と云ふべし

**飯坂温泉** 温泉地と云ふより遊樂地と言ふ方が適當だかも知れん、藝者も公娼も居る温泉地で有名だ、風景もよく摺上川の舟遊などは面白い福島から二里半自動車の便輕鐵及近く電車の開通も見る。

**湯本温泉** 石城の湯本にある男女混合浴の所もあるから縣警察當局は注意するがよいと思ふ、温泉は飯坂と同じく湯本の藝者などは奮つたものだ

**東山温泉** 飯坂と同様に温泉地としてより遊樂地と見做す方が適當たかも知れない



藝者五六十人も居つて淫賣が盛んであるとの評がある

**高湯温泉** 福島市より三里半奥羽線庭坂驛より徒歩するを便とす、同驛より二里海抜三千尺の高處にある夏日蚊聲も聞えぬ、不動瀧、小瀧、熊瀧などがある、旅館が四軒あつて完全してゐるが内王子湯旅館は完備してゐるのみでなく主人初め皆な親切に客を扱つてゐるから高湯温泉第一の好評あり、従つて浴客も一番多い而して玉子湯の前面に小瀧か澤山あつて風光頗る佳である(寫眞参照)

## 本縣の銀行並に會社と商店

◎第百七銀行 福島市にあり資本金七百五十万圓東北有數の銀行なり頭取吉野周太郎氏支配人阿部和永吉氏高橋恒太郎氏副支配人高木吉助氏なり

◎福島銀行 資本金百五十万圓にて頭取吉野周太郎氏專務取締役福島にて人望第一なる湯川廣氏なり

◎福島商業銀行 資本金參百万圓東北唯一の堅實銀行也頭取は人望と信用厚き草野半氏支配人三浦徳次郎氏副支配人菊池隼人氏也

◎福島農工銀行 資本金五百万圓頭取小林富吉氏支配人大高隼太郎氏也

◎福相銀行 資本金五拾万圓にて頭取大沼平兵衛氏支配人高橋氏なり

◎鈴木實業銀行 福島市にあり頭取鈴木周三郎氏專務鈴木周次郎氏支配人鈴木益雄氏にて資本金三十万圓也

◎第百七貯蓄銀行 福島市に在り資本金一百万圓頭取内池三十郎氏なり

◎山八銀行福島支店 福島市中町に在りて發展なしつゝあり支店長は加藤氏なり

◎福島電燈株式會社 は現在本縣一流の電氣會社なるが同社の創立は明治二十八年十一月十五日當時資本金二万五千圓なりしが今日は八百萬圓の大會社となり其の發電所十二ヶ所動力三千四百五十萬馬力供給區域は米澤福島の二市十四町四十八ヶ村同社は  
大正九年九月奥羽電氣九年十二月に磐城水電十年十二月に東洋化學を合併し縣下一流の



電氣會社となる重役は専務取締役奥山忠左衛門常務取締役阿部鶴五郎取締役支配人加藤逸治の諸氏の外取締役に草野半、鈴木清吉、吉野周太郎、大内虎之助、松本孫右衛門、長谷川仁監査役に菊池右和司、大塚民三郎、堀切文輔、山森佐太郎の有力家が居るから益々發展されるであらう

### ◎郡山電氣株式會社

猪苗代湖の天然なる大貯水池を有し本縣電氣界の霸王なる同社は本縣の中央部にあり交通其他何れの點より見るも最も有利の地位にあり郡山を中心として地方殊に本縣南部及び海岸地方に其巨手を擴げ幾多の小電氣會社を合併し數ヶ所の發電所を完成せしめ凡ゆる工業會社に尤大なる動力を供給しつゝあり資本金は一千五百萬圓にして社長は本縣の有力家にして大人物たる橋本萬右衛門氏専務取締役には實業家として聞えある根本祐太郎氏あり其他の重役も縣内一流の實業家なれば豊富なる電力を有し縱横無盡に大活躍を爲しつゝあれば社業日に益に大發展隆盛に進み東北電氣界の霸王と言ふも決して過言に非ず、然して同社の今日の如き盛況を見るは重役の努力と

### ◎鈴木實業銀行小高支店

同店の開設は大五年十月にて支店長に小壯敏腕家の好評ある鈴木利三郎氏あれば信用最も厚く日進の勢力にて益々發展しつゝあり

### ◎百七銀行小高支店

大正二年六月の開設にて丹羽茂氏の熱心努力家支店長たりされば營業益々發展し四人の支店員大に奮闘しつゝあり定めし今後本店の發展に伴ひ同支店の隆盛も著しならん

### ◎好間電氣株式會社

同社は大正七年三月資本金三十五萬圓にて創立せるが一躍百五十萬の増資をなせり社長に田舎孝雄氏あり支配人龜岡彦衛氏其他取締役監査役等の重役も縣下有名なる實業家にて現在一千キロの動力を有す堅實なる營業振りがれば社業日に隆盛を歸し居れり

### ◎本宮電氣株式會社

同社は明治四十三年創立資本金五十萬圓社長小松四郎治氏支配人伊藤市之介氏は共に地方實業家として有力なる人物にて社業の爲大に努力せられ



つゝあれば發展著しく一町九ヶ村に涉りて配電し其の他動力の供給の爲電力の不足を生じ第二發電所の竣工をなし豊富なる動力にて縦横無盡なる大活躍をなしつゝあり

◎日東スレート株式會社 安達郡二本松町にあり資本金二十萬圓にて八年一月創立し社長に本縣有數の實業家山田一氏專務取締役に渡邊又吉氏あり、石山は岩手縣氣仙郡其他各所に社有の石山あり品質優良石量豊富なれば充分なる供給と共に定めし社業の發展著し

◎只見川水力電氣株式會社 は資本金一千萬斯の十一萬キロを有する只見川の水利權を有しつゝあるも目下工事を中止、猪電か郡電かと合併後工事開始さるべしと社長は根本祐太郎氏なり

◎福島飯坂電氣軌道株式會社 は資本金六十五萬圓福島市に本社あり目下實地測量を終り工事に着手なしつゝあるが、同社は福島市飯坂間の電車軌道にして地方開發上最も意義ある會社なり社長は高岡唯一郎氏專務取締役に佐藤利助氏にして遅くも今年

中に開通の運に至るべしと

◎磐城銀行 資本金五百萬圓頭取白井博之氏にて明治二十九年三月創立海岸地方第一の金融機關として信用厚く益々發展しつゝあり主事草野順平氏なり

◎平銀行 明治二十九年十一月開業資本金五十萬圓頭取山崎與三郎氏にて海岸各要地に支店を有し信用厚く好評の下に發展しつゝあり

◎磐越銀行 石城郡平町に在り明治廿年六月の創立にて資本金五拾萬圓頭取は中野甲藏氏にて信用厚く發展し昨年八月現在の太建物の落成を告げ平町の壯觀となれり今後益々發展の勢あり

◎第一百銀行 伊達郡梁川町第一百銀行は明治十一年九月之創立資本金五十萬圓地方金融機關として専ら産業の發達振興に努力しつゝあり殊に頭取大竹宗兵衛氏の人望と支配人齋藤宇三郎氏の信用とに依り業務日に隆盛に趣き基礎益々鞏固を加ふると共に一面一層確實なる方針の下に懇切丁寧を旨として取引せる爲め頗る好況を呈し株主配當の



如きも年一割にて好評信用愈々噴々たり

### ◎磐城製菓株式會社

は大正八年資本金二十万圓にて創立九年八月同社製造の『小松あられ』は國母陛下御買上の光榮を得日増隆盛を來し其の販路は東北地方は勿論北海道關東地方迄擴張され年産額二十五万圓以上に達しつゝありと社長は中野甲藏氏常務取締役は羽鳥文次郎氏外取締役は平町有力家數氏なり

### ◎梁川倉庫株式會社

伊達郡梁川倉庫株式會社は資本金十萬圓社長大竹宗兵衛氏にて大正五年五月創立其の後著しき隆盛發展を爲し大正八年四月伊達郡藤田町に支店を開設地方の物産を一手にて取扱ひ居る有様にて株主配當の如きは年一割五分の好況なり同社支配人渡邊直助氏は温厚の篤實努力奮闘の人なる爲め同社の發展上預つて力大なるべし

### ◎梁川蠶種株式會社

同社は伊達の本場にて聲名高く信用厚し資本金五萬圓社長大竹宗兵衛氏及支配人に脇屋隆吉氏あり共に蠶業界の偉人にして現代我蠶絲界の要求に

従ひ優良なる一代雜種により統一せる製糸原料を得んと努力せり同社は郡内各所數多の製種分場を有し頗る優良無比なる蠶種を製造販賣しつゝあれば益々隆盛に至り好評噴々たり

### ◎山八銀行梁川支店

大正九年開設支店主任田口氏の信用と熱心なる店員の努力により著しき發展振を示めし今や當地金融機關の百一銀行と共に益々隆盛に向ひつゝあり

### ◎伊達蠶業株式會社

伊達郡桑折町にあり資本金五萬圓社長に蠶種製造家として有名なる佐藤宗兵衛氏専務取締役として寺井氏あり共に熱心なる努力の結果社業益々發展し優良蠶種の販賣桑苗其他蠶具一式を責任を以て薄利にて販賣しつゝあり

### ◎共立福島病院

福島市縣廳通りにあり一市三郡の共立にて其の創立は今より五十年前なり目下東北有數の大病院となり醫員は院長外十二名藥局員五名庶務課員四名看護婦四十名病室は患者百數十名を入院し得る設備あれども病室の不足を來し昨年病室三棟



の新築を終り同病院にては年々看護婦を數十名募集し頗る好成績を挙げつゝあり

◎土湯電気株式會社 は資本金三十万圓にて社長に矢吹友右衛門専務取締役佐藤孝吉氏あり發電所を信夫郡土湯村東鳥川に有し今や佐藤氏の熱心と努力とにより工事の大體も竣工終り五月より供給區域なる土湯村外五ヶ村に五千餘有の點燈及電力の供給をなしたり

◎東北肥料株式會社 は伊達郡長岡にあり地方唯一の會社にして専務取締役は佐藤源輔氏資本金は三十万圓大正十年の創立なり同社にては農家の爲にインターナショナル石油發動機を販賣しつゝあり

◎福島運送合資會社 は資本金五万圓大正二年四月の創立にして社長は吉野周太郎氏支配人深谷卯之松氏支配人代理板垣氏あり支店は二本松棚倉笹木野磐城常盤に設置しあり隆盛なり

◎福島倉庫株式會社 資本金五十万圓明治三十三年五月の創立にして社長は吉野

氏支配人は武藤義一氏なり

◎菊印石鹼株式會社 は大正七年十月の創立資本金三十万圓にして専務取締役渡邊要助氏年産額十萬圓なり販路は關西關東東北地方の外北海道長野等なり日本絹撚株式◎日本絹撚株式會社福島工場 は大正七年の設置にして工場長高橋喜一氏書記長松崎千代吉氏にして益々發展しつゝあり

◎請戸川水力電気株式會社 は大正九年四月の創立にて資本金二十五万圓動力五十キロワットを有す社長西谷小兵衛氏専務取締役は大内倉吉氏なり

◎福島誠壹株式會社 は資本金二十万圓明治二十二年六月の創立にして社長草野半氏支配人岡崎九一氏なり

◎株式會社丸大魚問屋 は大正元年十二月資本金五万圓にて創立の唯一の會社にて現社長は淺井儀一氏である

◎第百七銀行郡山支店 は支店中最も重視され居るが支店長古關氏は三十一年よ



り同行に入り各地支店長を経て現在に至る丈け同氏の努力にて成績良好なり

◎共益信託株式會社 伊達郡保原町に在り資本金十萬圓社長小野茂右衛門氏支配人安田亥一氏にて營業方針堅實なれば地方の信用厚く本縣有數の信託會社にして社業益々發展株主配當の如きも一割の好況極む

◎藤田信託會社 は伊達郡藤田町第一の金融機關にして資本金五十萬圓に増資發展本縣第一の信託會社なり其の成績頗るよく好評嘖々として信用厚く専務取締役紺野金治郎氏は溫厚篤實素質勤勉を以つて主義とし熱心に社員を督勵しつゝあれば社員もこれに習へて専心社業の發展に努力しつゝありそれが爲め社業日に隆盛に趣き株主配當の如きは一割の好況を示めし近く銀行組織になるべしと云ふ

◎株式會社福山商會 福島市早稲町なる同社は大正八年七月資本金二十萬圓にて横田佐八郎氏社長として創立せる株式會社なり然して營業の概要は絹糸紡績原料の委託賣買にて目下盛に鐘紡の原料を供給しつゝあり其の成績頗る好況今後益々發展見るべし

◎奥州蠶業合資會社 伊達郡桑折町にあり小林伊佐男氏の經營にて創業日尙淺け

れども小林氏の努力と熱心とにより社業益々發展し今や縣内は言ふ迄もなく山形秋田宮城岩手の東北地方より關東關西の各地迄取引をなせりされば同社の名聲各地に響き蠶種の注文山をなせり

◎小高商業銀行 海岸地方にて堅實主義を第一として信用厚く益々發展しつゝある同行は資本金五萬圓合資組織にて殆んど家族的にて成れる同行の頭取は藤奎右衛門氏にて監査役には福島有力家信望最も厚き松本泰氏あり

◎飯坂銀行 資本金五十萬圓頭取白石西藏専務取締役堀切文輔支配人大内鐵造氏の財界にありては成績頗る良し

◎四倉銀行 平町にあり隆盛を極む

◎磐城實業銀行 平町にあり益々發展しつゝあり

◎農工銀行 平支店第七銀行平支店共に成績良好なり農工支店長永井氏なり



◎磐東銀行 平町にあり

◎七十七銀行平支店 本店を仙臺に有し支店を平町にあり

◎第一百七銀行平支店 は支店長青田直衛氏にし開店日淺きも同氏の努力奮闘に依り非常の好成績にて隆盛を極めつゝあり

◎日本正準製絲株式會社 同社は伊達郡長岡村にあり大正六年十二月資本金十萬圓にて長岡製糸場として創立す社長に佐藤儀四郎氏蠶業の經驗と素養充分なる爲め日に隆盛に趣きつゝありしが社長佐藤氏は高き理想より生糸の需要は米國なるを以て米國の狀態を視察の上世界的の大組織に改めんと大正七年米國に渡り大に得る所ありて同年十一月歸朝し品質の改良品種の研究等地方養蠶家の福利増進に努め大に斯界の貢獻する所ありたり其の他氏は理想により各地に講演を催し日本蠶業組織改良期成同盟會を設け日本之蠶業の機關雜誌發行等普く養蠶家と製糸家の提携を計り一方蠶種の改善品種の選抜

を計る爲め附屬蠶種を設け一般養蠶家に甚大なる便宜と利益とを與へる爲め佐藤氏の理想時代の趨勢に據り愈々實現したれ同九年一月五百万圓の大資本に一躍増資なすそれと同時に日本正準製絲と改稱したり同社は現に本社に優る本宮分工場及び田村、石川、會津、棚倉の各地に分工場あり其釜數一千數百に達せり本縣に大製糸場あると雖も其の大なるは何れも本縣人の經營なれば正準製絲會社は眞の本縣第一の製絲所と言ふべし

◎山十組製絲所 本縣一流の大製絲場たる同場は大正六年十一月の創業なり本店は信州平野村に在り我國有名の製糸家たる小口村小口今朝吉兩氏の經營にて全國各地に工所ありて其の總釜數一萬有餘と稱されつゝあり福島も又同分工場の一なれども其の釜數一千餘工女其他にて千有餘人あり

◎片倉組製糸所 本邦製糸界の霸王なる資本金一千万圓の株式組織に改めたる長野縣諏訪在に本城を構へ全國各地は勿論遠く朝鮮支那方面に迄巨手を延ばし縦横無盡大飛躍を試みつゝある同社は明治十一年の創業にて其の後發展に發展を加へ今日の如き時代



の趨勢と共に殆ど天上知らずの勢にて膨脹發展し來たり然り而して今回の一大計畫たるや少くとも確に本邦製絲に向つて革命的斯界の覺醒を促したるものなるべく就中信州松本の同社にては釜數千八百餘にして一日の生産額二千捆を算し實に本縣の一製絲會社の一ヶ年分の産額に當れり斯る大工場を有して社界の注目を惹きつゝある片倉組の一支社たる本縣郡山の岩代製糸所は明治四十五年三月の創立にて爾來日進の發展を示めし目下其の釜數一千従業員一千餘名を擁し小壯實業家林清夫氏加藤花岡氏の健腕に支配され活動しつゝあり一ヶ年の生産額二千捆を算す現況なり

◎富國館製絲所 當製絲所の經營者は兩角幸助氏にして總釜數一千有餘工女其他の八夫職員にて一千六百餘人一ヶ年の生産額實に三千餘捆の生絲の産出を見ると言ふ當館は大正五年二月の開業以來昨年特に當製糸所の爲め奥羽線笹木野驛の設けもあり近く館側迄私設引込線の計畫等もあれば當製絲場の發展定めし刮目に値あるべし

### ◎佐野製絲場

は福島縣に最も深き緣故ある製糸場にして明治十八年宮城縣金山町

に創立目下金山を本城として相馬郡中村町に東西二分工場を有し總釜數七百工女其他にて八百人餘にて佐野理八氏の經營なり然れども今や本城より支場の勢力著しく益々隆盛に向へつゝありこれ分工場主任たる田附五平氏の敏腕と努力とともに依り發展しつゝあり

### ◎東北製氷株式會社

は郡山にあり社長内藤氏にして東北一流の製氷會社なり

### ◎笠原組製絲所

須賀川町にあり堅實の製糸場として名あり

### ◎後藤株式商店

は福島市榮町にあり後藤儀重氏の開業日淺けれど信用厚く大に發展し今日の如き好評嘖々として發展しつゝあり

### ◎八島屋洋品店

福島市本町にあり帽子洋傘メリヤス其他最も時代的嶄新流行品を薄利多賣にて信用を第一として専ら責任を以つて販賣せりこれ店主の主義とする所にし

て繁昌の基なり店主は溫良の人物にて好評中に益々繁榮しつゝあり

### ◎村田時計店

伊達郡桑折町村田倅太郎氏經營なる同店は賣品の正確なると薄利なりとにより信用最も厚く町内は勿論遠く福島保原等の他地方より來客ありと云ふこれ正



に同店信用の然らしむる處にて益々繁榮すべし

◎黒澤酒店 福島の人物たる黒澤松五郎氏の經營せる大商店なり好評嘖々として繁昌しつゝあり

◎私設待合所 停車場構内の同所は伊藤八三郎氏の經營にして汽車旅行者の便宜大なり

◎山崎製板所 は伊達郡桑折町にあり同郡著名の製板所にして山崎三郎氏の經營なり

◎半田製氷株式會社 伊達郡唯一の製氷會社にして社長は奥山實之助氏なり

◎福島紡織株式會社 は資本金七十五萬圓專務取締役は横田佐八郎氏なり同社は一時不況なりしも横田專務の努力に依り目下非常の好成績なり

◎信達銀行 は本店伊達郡保原町にあり資本金五十萬圓頭取佐藤權右衛門氏支配人八卷氏にして創立以來非常の隆盛を極む

横田商店 は市内荒町にあり蠶物商店として市内一流の聞高し同店主は横田佐八郎氏にして支配役は横田愼次郎なり同店は店員數十努力の効あり隆盛を極めつつあり

## 福島縣之人物

順序不同

大島要三氏 は埼玉縣に生れ幼少より 努力奮闘的人物也夫人は柔和にして宜く大

福島縣に居住眞に立志傳中第一人者也目下 島氏の力となり模範的夫人也

東北實業界の霸王を以つて目さる會津電力 草野半氏 福島市の中心人物にして福島

株式會社の社長之外本縣著名之銀行會社の 商業銀行頭取也性溫和實直の君子的人物也

取締役にして各種會社の創立は一の氏の力 朝倉卯八氏 養父鐵造氏は元代議士な

に依りつゝあり性溫良氣骨ある紳士にして り明治元年伊達郡立子山に生る本縣實業界



之中心人物にして性溫良德實之人也

的人物也

阿部鶴五郎氏 は現福島電燈株式會社

吉野周太郎氏 福島銀行の頭取なり

常務取締役として聲望あり明治七年五月十

小林富吉氏 福島縣農工銀行の頭取に

七日小高町に生る三十九年磐城水電の創立

して聲望あり岩瀬の人明治元年を以つて生

を計畫し本縣電氣界の先覺者たり資性溫厚

る性溫良の紳士なり

德實、頭腦明晰の人物なり

鈴木周三郎氏 前貴族院議員にして目

田倉孝雄氏

現縣會議員として好間水

下鈴木實業銀行頭取並に代議士なり

電會社長なり二本松に住し法學士として又

大竹宗兵衛氏 伊達郡梁川町の有力家

縣下實業界將なり

にして第一銀行頭取なり伊達實業界の重

石部豐氏

共立病院監理者として才腕の

鎮として目さる

聲高し會津之人官界に身を投じ河沼郡相馬

湯川廣氏 明治八年石城郡に生る公共事

郡長信夫郡長たりき頭腦明晰言論正確模範

業に力を致し名聲頗る隆々たりき後福島銀

行に入り専務取締役として今日に至る性溫

經濟科卒業の人物にして工業ことに電氣事

良にして福島實業界の敏腕家なり

業を最も深く研究なしつゝあり性溫良篤實

阿部和永吉氏

現第一百七銀行支配人に

男子的氣性を有す部下を愛し信望最も厚し

して聲望あり

曾て會計検査院に奉職せし事あり前東京市

高木吉助氏

現第一百七銀行支配人にし

長田尻稻次郎博士に學びし事もあり郡山の

て重視さる溫和實直の士也

發展は一に電車事業の積極消極に依る事言

三浦徳次郎氏

福島商業銀行支配人に

を俟たず必や氏の手腕近き將來に於て一層

して信望厚し

表るべし郡山實業界の敏腕家なり

鈴木益之助氏

鈴木實業銀行支配人に

幡英二氏 明治十四年信夫郡松川に生る

して性溫良實直の人物也

明治三十九年東京帝國大學を卒業直に同大

藤田平重郎氏

郡山電氣會社營業部長

學助手として同四十二年迄は産科婦人科に

として聲望あり早稻田實業學校及專修大學

勤務二等軍醫にして正六位性溫良目下明治



病院長也

實直患者に親切なり

四四

佐藤澤氏 宮城縣亘理町の人明治元年十

桐澤長明氏 明治四年秋田氏に生る十

二月を以つて生る十七年宮城中學校に入り

四歳にして醫學に志し縣立秋田甲種醫學校

同醫學校に轉じ更に第二高等學校醫學部に

に入學更に第二高等醫學部に轉じ卒業天野

學び卒業して直に宮城病院内科部に勤務後

博士に就て生理細菌學を修め宮城病院に入

職を辭して東都に遊び小兒科内科を研究二

り明治二十九年新潟縣小千谷院長となり次

十九年歸りて福島市上町に開業し大正元年

で本宮病院醫長福島病院に勤務十年同四十

病院に變更佐藤病院とし院長たり趣味は讀

三年福島市中町に開業現在に至る性温良な

書にして美術演藝に通せり温良篤實の士な

る士なり

り

照内淳良氏

福島市の人北町に産科婦

松永琢磨氏

明治十四年佐賀縣に生る

人科専門として開業聲望あり性温良にして

東京帝國大學卒業四十一年大學病院に勤務

四十四年福島市三郡病院副院長大正四年院

長となる五年歐米へ出張研究七年歸朝現に  
共立病院長として名聲噴々たり性温良篤實  
の士なり

百一銀行支配人に擧げられ今日に至る梁川  
町有力家にして財界敏腕家として知らる資  
性温和實直の人物なり

松本泰氏

明治十八年相馬中村町に生

田口留兵衛氏

弘化元年十二月八日伊

る小高商業銀行監査役其他の銀行會社に關  
係しつゝあり氏は富豪家に生れ公共的事業  
並に慈善心に富み事に當つては機敏市財界  
少壯敏腕家として望を托さる資性温厚篤實  
男子的氣性を有す目下電燈會社に勤務しつ  
ゝあり

齋藤宇三郎氏

伊達郡梁川町の人曾て

福島商業銀行に營業部長たりき大正二年第

十有餘年終始一貫公共事業に身を委ねよく



達郡 梁川 町生 る明 治六 年以 來四



寢食を忘れて奔走盡瘁し明治二十一年町  
つゝあり人皆な氏の氣骨を愛し斯くて氏は  
村割實施より大正十年十二月迄至る迄町長  
郡内第一人者として重要されつゝあり年齒  
に擧げらる功に依り從六位勳七等を位階勳  
等を有し大正七年六月賞勳局總裁より勅定  
の藍綬褒章を賜はれ其の善行を表彰せらる  
資性溫厚篤實なる人物なり  
後藤儀重氏 榮町に居住株式界に身を  
投じ曾て福島信託に支配人として聲望あり  
き又陸軍に席を有し陸軍歩兵大尉なり頭腦  
明晰機敏にして先見の明ある人其の機を見  
るに敏なるに信賴し溫良の人なり

佐久間澤次郎氏 信夫郡有力家として  
名聲噴々たり土湯の人電氣事業の必要を知  
るや自ら努力奮闘水利權を獲得し東西奔走  
同志を集め岩代電力吾妻電氣會社を創立し  
其の功や大なるべし、氣骨ある男子的氣性  
を有し公共事業には財をおしまじ實行なし  
岡田誠氏 安田銀行桑折出張所長として  
聲望あり頭腦明晰財界第一人者なり氏は宇  
都宮安田銀行支店より三春中村の支店に勤

務仙臺支店勤務現住所伊達郡桑折出張所長  
業に盡力し慈善心に富む資性溫厚篤實人に  
に榮轉ことに株式界によく調査機敏の結果  
對して城壁を設けず眞の模範的人物なり  
百發百中なりと云ふ氏は又盆栽謠曲に趣味  
横田佐八郎氏 現福島紡績株式會社專  
を有し自ら自己の慰安をなしつゝあり地方  
務取締役として聲望あり玉絲會社創立當時  
の信望厚く其の同行も成績宜し資性溫厚篤  
より入り其の功大なり資性溫厚篤實の人物  
實の人物なり  
なり

本間忠氏 二本松に居住同町第一の信望  
あり有力家として名聲高し安達實業銀行頭  
取其他二本松に設立されつゝある銀行諸會  
社に取締役監査役として氏の關係せざるも  
の全となしことに町内の發展に意を用ひ其  
の功績甚大なり或は電氣事業に盡し公共事  
業に盡力し慈善心に富む資性溫厚篤實人に  
高久忠氏 醫學士にして平町に開業し明  
治四十二年大學卒業後四十五年五月迄三郡  
共立福島病院副院長として内科婦人科擔任  
せり同六月平町に開業内科婦人科小兒科を  
主とし其他耳鼻咽喉科を特設し今日に至る  
鐵道醫にして石城產婆看護婦學校講師たり



性溫和夫人は前檢事正故高木盛之輔氏の第三女にして一男一女あり文藝に興味を有す  
鈴木壽一氏 明治十四年四月石城郡好間村に生る三十六年三月濟生學舎卒業明治三十七年現住所平町に開業石城郡醫師會幹事飯野好間小學校醫消防醫なり平看護婦設立者の一人にして同講師なり性溫和實直の人にして川柳に興味を有す

鈴木一衛氏 明治十年十二月生る濟生會出身なり三十七年信夫郡瀨の上町に開業現生に瀨の上餘目兩小學校醫なり令息は第二高等學在學中夫人又柔和の女史なり

滑川一郎氏 明治九年茨城縣多賀郡に生る三十七年東京高等師範卒業滋賀縣師範名古屋師範仙臺第二中學磐城中學札幌中學校等に教鞭を取り大正三年相馬中學校長に轉じ後磐城中學校長として現在に至る  
遠藤卯兵衛氏 明治元年伊達郡桑折町に生る明治二十八年より選ばれ町會議員郡會議員及所得稅調查委員の榮職に就任其の後桑折郵便局長として現在に至り在職中な資性溫厚なる人物なり

内藤八郎氏 共立福島病院副院長として聲望あり明治十九年二月二十二日靜岡縣

濱名郡笠井町に生る四十四年帝大醫科卒業後病理學室に同學を研究する事一ケ年大正元年內科青山病院に三年九月青森縣弘前病院に勤務九年三月十六日共立福島病院副院長として內科を擔任現在に至る性溫厚篤實なる人なり

木下銀助氏 明治三年福島市に生る大正六年市會議員現商業會議所議員なり性溫厚篤實の人物なり

富田三津義氏 明治四年伊達郡石戸村に生る西ヶ原蠶業學校卒業後福島縣蠶業學校に奉職大正三年國立原蠶種所長に就職現

在に至る頭腦明晰溫厚篤實の士なり  
島貫平助氏 現信夫郡瀨の上町長として町民の信望頗る大なり自治功勞者にして又諸會社の取締役等なり慈善公共事業に盡し赤十字有功特別會員なり性直實の人物なり  
西博通氏 福相銀行桑折支店長にして聲望あり資性溫厚篤實の人物也

奥山忠左衛門氏 前縣會議員として聲望あり大小幾多の銀行會社に關係し伊達郡藤田町に居住し伊達實業界の雄者を以て目する性溫良實直の人物也目下福島電燈專務



取締役なり

正々堂々政界の雄者たり

五〇

田口辰造氏

伊達郡梁川町の人町長留

大内鐵道氏

飯坂銀行支配人として飯

兵衛氏の令息なり梁川郵便局長及び山八銀

坂町の人性快活努力奮闘的人物也

行梁川支店長なり性溫和の士なり

奥山實之助氏

は伊達郡桑折町に居住

柴橋惣太郎氏

福島市萬世町柴橋醫院

地方の信望大なり氏は事業界に努力奮闘し

長明治九年六月山形縣西村山郡に生る三十

半田製氷會社を創立つひに同社を創立し成

六年仙臺醫專卒業し後に三郡共立福島病院

績を上げ隆盛を極めつゝあり性溫和奮闘的

に奉職し勤むる事九年四十四年現住所に開

人物である

業し今日に至る性溫和篤實讀書に趣味を有

加藤逸治氏

現福島電燈會社取締役支

す

配人なり

齋藤善三郎氏

伊達郡白根村の人現縣

大高隼太郎氏

は現農工銀行支配人に

參事會員共立病院議員等の公職を有し言論

して明大法科卒業頭腦明晰溫厚君主人也

須藤林七氏

明治十一年田村郡二瀬村

慶應大學出にして溫厚の人物也

に生る明治三十五年文官試験に及第本縣廳

龜岡彦衛氏

は伊達郡伊達崎村に生る

に勤務(土木課)大正九年十二月信夫郡長に

現好間水電株式會社支配人にして社長田倉

榮轉現在に至る資性溫和君主的人物なり

氏を助け同社の爲努力奮闘しつゝあり性溫

島貫柳吉氏

は信夫郡飯坂町の有力家

厚實直の士也

なり

西牧三郎氏

は明治八年十一月一日石

佐藤儀四郎氏

は伊達郡長岡の人本縣

川町に生る四十年會計検査院四十三年内務

營業界に於ける功績し目下日本正準製糸株

省に勤務大正二年縣廳に勤務地方課及會計

式會社々長にして曾て米國蠶業界の視察を

課長たりき七年安達郡長九年二月田村郡長

なし伊達蠶業界に盡せる事甚大なり資性溫

和にして氣骨あり努力奮闘的人物なり

和にして氣骨あり努力奮闘的人物なり

女學校に通學しつゝあり

吉野正路氏

は現福島銀行支那人なり

渡邊要助氏

は明治十三年四月十三日



伊達郡川俣に生る十八ヶ年も消防に従事す  
堀切文輔氏 明治六年十月飯坂町に生  
る現に飯坂銀行専務として聲望あり  
目下組頭たり

大内倉吉氏 は明治十四年本宮町に生  
る大正元年大正新聞を創刊後實業界に入り  
目下請戸川永電の専務取締役たり

岡崎九一氏 は明治九年一月岩手縣前  
澤町に生る四十二年出福大正元年誠壹會社  
に入り現に支配人なり

高橋喜一氏 明治九年三月若松市に生  
る東京高等工業學校卒業後縣立工業學校教  
諭として十年間勤務大正八年四月日本絹燃  
會社に入社現に福島支場長なり

大桶弘氏 明治十八年十二月野田村に生  
る大正元年十一月仙臺醫專卒業後東北に研  
究四年現住所野田村に開業今日に至る

岩瀬常太郎氏 は富山市の人明治十三  
年十月同地に生る明治三十四年より安田銀

行に入り秋田、福島、横手、宇都宮、若松、中  
村に支店長又は次長として勤務目下郡山同  
行支店長として聲望あり

田中柳太郎氏 は伊達郡長岡の土木  
請負業者として地方有力家なり

佐久間文七郎氏 福島市に居住土木請  
負業者にして人望あり

菅野與右衛門氏 伊達郡川俣町の有力  
家にして前郡會議員なり

堀江精輔氏 は明治八年福島市に生る  
卅四年專修大學卒業經濟理財專攻後第百七  
銀行に入り預金替爲課長勤務卅七年丸共製

糸所に入り専務取締役として今日に至る  
浅井儀一氏 株式會社丸大魚問屋社長  
なり明治七年十月會津に生る同社創立當時  
よりの人にして同社の功勞者且つ市有力者  
なり

小田島琢氏 は現郡山電氣株式會社主  
事にして總務部長を兼ね聲望あり頭腦明晰  
にして努力奮闘家なり

菊池隼人氏 現福島商業銀行副支配人  
として聲望あり經濟通にして頭腦明晰奮闘  
家なり

皆川新作氏 現磐城高等女學校長とし



て聲望あり

大石儀作氏

現商業銀行川俣支店長な

り

鈴木鳴一氏

は現共立病院副院長にし

て婦人科部長を兼ね信望大なり帝國大學卒業後三井慈善病院に産科婦人科を研究大正五年四月共立病院に入り副院長として今日に至る

矢戸宇太郎氏

は信夫郡瀬上町の人現

縣會議員にして同町郵便局長を兼ね性従厚篤實の人物なり

佐藤利助氏

は現信夫郡會議員として

聲望あり郡内政友會の重鎮たり明治四年九

月清水村に生る日清日露の役に出征功六級

を下賜さる又事業界に雄飛し目下福島飯坂

電氣軌道會社の専務取締役なり

田窪彦一氏

帝大卒業の工學士にして

卒業後米國に遊學研究歸朝後小坂鑛山に入り藤田組内田所長を勤務目下福島電燈會社伊達電練技師たり

二階堂伊藏氏

現信夫縣會議員として

令名あり信夫郡水保のハ性儉厚の人物也

佐藤孝吉氏

は現土湯電氣株式會社專

務取締役にして努力奮闘の人物なり

遠藤卯兵衛氏

は伊達郡桑折郵便局長

なり

根本武夫氏

は二本松に居住製材業を



開業

目下

非常

の好

成績

にて

隆盛

安達郡二本松町に生る明治四十二年日本醫

學校を卒業後東京神田高田病院に勤務二年

にして静岡縣下の某病院に入り三年再び東

京に居住順天堂病院皮膚科勤務研究大正三

年六月福島市大原病院に入り皮膚科長たり

大正十一年七月市内宮町に獨立開業現在に

至ることに皮膚科は氏の獨特にして患者の

信望厚く益々隆盛を來しつゝあり性温厚篤

實の人物なり

林信政氏

は明治十一年十一月廿二日山

形縣に生る廿二年出福後岩代銀行に入り支

配人として勤務大正十年十二月同行が百七

を極めつゝあり

三澤三郎氏

は明治十八年十一月一日



に合併さるや百七に席を置きしも直に選ば  
れて米澤市に本社を有する中忠機業株式會  
社常任取締役として就任整理に盡力しつゝ  
あり頭腦明晰機敏の氏は必ずや好成绩を上  
げん

黒澤松五郎氏 は現市會議員として聲  
望あり宮城の人黒澤酒店を經營隆盛に來し  
つゝあり

大内嘉六氏 は現富國館製糸場庶務主  
任として信望厚し頭腦明晰にして宜く事務  
を整理し性溫知實直の人物である同製糸場  
の隆盛又氏の力に依るもの多し

川島豐氏 現日本正準製絲庶務課長とし  
て聲望あり努力奮闘の人物なり

西川正一氏 福島市本町に開業し居る  
齒科醫なり明治十五年十二月安積郡小野井  
村に生る大正三年齒科醫術試験に合格後平  
町飯坂等に開業五年福島市に移轉開業現在  
に至る資性溫和の人

齋藤宇兵衛氏 現伊達郡白根村長とし  
て村治に盡力し又消防組頭として地方の發  
展に意を用ひつゝあり資性溫和篤實地方一  
流の人物なり

八巻源藏氏 伊達郡山舟生村の人物也

同地方一流の富豪家として又消防組頭の職に  
十有餘年前郡會議員として村治郡治に盡力  
する事甚大なり性篤實にして公共事業に盡  
し模範的人なり

## 刊 末 に

本書は多數の讀者に配布せん爲頁數を減じ  
部數を増加發行せり本書發行に就て大和紫  
雲氏其他の諸賢より多大の同情と援助を得  
たり一言書して謹謝す



磐城銀行	平城銀行	磐城實業銀行	磐越銀行	四倉銀行	磐東銀行	農工銀行	七十七銀行	第一百七銀行
行	行	行	行	行	行	支店	支店	支店

# 郡山電氣株式會社

# 福島電燈株式會社

# 福島飯坂電氣軌道株式會社

社長 高岡唯一郎

專務取締役 佐藤利助

# 日本正準製絲株式會社

社長 佐藤儀四郎



大正十一年三月二十七日印刷  
大正十一年三月三十日發行

【定價五十錢】

著者 齋 熊 稚

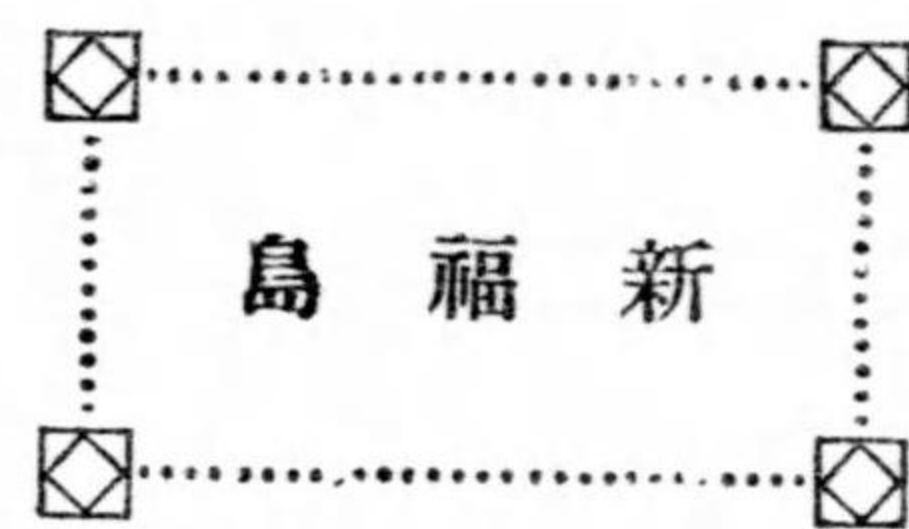
福島市新町三〇

發行人 齋 熊 稚

福島市上町五一

印刷所 福島印刷所

複製不許





株式現物賣買

# 後藤株式商店

福島市榮町（福島ホテル向）

電話 長 六五二番





終